

令和5年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

令和6年10月7日現在

部門	事業番号	事業名	ページ	備考(担当部)
森林部門	1	・環境保全林整備事業	1	林政部
	2	・里山林整備事業 (①危険木の除去)	2	
		・里山林整備事業 (②バッファゾーンの整備)	3	
	3	・脱炭素社会に貢献する森林づくり事業 (①被害森林等での早生樹等の植栽)	4	
		・脱炭素社会に貢献する森林づくり事業 (②森林吸収源対策)	5	
	4	・教育福祉関連施設木造化・木質化等促進事業 (①木造化、内装木質化)	6	
		・教育福祉関連施設木造化・木質化等促進事業 (②木製品の導入)	7	
	5	・木質バイオマス利用促進事業 (①木質バイオマス利用施設の導入)	8	
		・木質バイオマス利用促進事業 (②未利用材の搬出)	9	
	6	・ぎふ木育推進事業 (①-1ぎふ木遊館の管理・運営)	10	
		・ぎふ木育推進事業 (①-2ぎふ木育の全県展開の推進)	11	
		・ぎふ木育推進事業 (②ぎふの木を使った教材の導入)	12	
		・ぎふ木育推進事業 (③森や木、川に関する環境教育やぎふ木育教室の開催等)	13	
	7	・森林空間活用促進事業 (①観光道路周辺の観光景観林の整備)	14	
		・森林空間活用促進事業 (②森林空間の活用を図るための施設の設置・改修)	15	
		・森林空間活用促進事業 (③森林空間を活用した活動の普及促進)	16	
環境部門	8	・野生鳥獣個体数管理事業 (①ニホンジカの個体数管理を目的とした捕獲等)	17	農政部
		・野生鳥獣個体数管理事業 (②カワウ、カワアイサ及びサギ類の個体数管理を目的とした捕獲)	18	
		・野生鳥獣個体数管理事業 (③大学等と連携して行う野生動物管理に関する調査研究等)	19	環境生活部
	9	・自然生態系保全・再生事業 (①上下流域が連携した河川清掃活動の実施)	20	県土整備部
		・自然生態系保全・再生事業 (②河川魚道の改修及び適切な維持管理)	21	
		・自然生態系保全・再生事業 (③水田魚道の設置等による水みちの連続性確保及び効果検証)	22	農政部
		・自然生態系保全・再生事業 (④生物多様性の保全・再生の普及啓発)	23	環境生活部
		・自然生態系保全・再生事業 (⑤生態系保全・再生に係る活動支援)	24	環境生活部・農政部
	10	・脱炭素社会ぎふづくり事業 (①脱炭素社会ぎふを支える人づくり)	25	環境生活部・農政部
		・脱炭素社会ぎふづくり事業 (②地域循環共生圏構想の促進)	26	
共通部門	11	・清流の国ぎふ地域活動促進事業	27	林政部・環境生活部

事業評価の考え方について

審議会のご意見を踏まえ第2期より、自己評価については、事業実績(事業量、事業費)の進捗率に基づき、評価を実施しています。

評価項目の進捗率	自己評価
90%以上	高く評価できる
70%以上、90%未満	概ね評価できる
50%以上、70%未満	あまり評価できない
50%未満	評価できない

令和5年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	林政部
担当課・係名	森林経営課・整備係
担当者名	

1 事業概要

① 概要等	実施事業年度	令和5年度					
	計画・評価年月日	令和4年12月22日 / 令和6年7月12日					
	部門	森林部門					
	事業名	環境保全林整備事業					
	事業概要	「環境保全林」における間伐等の助成					
事業開始年度	平成24年度						
② 事業目的	・森林所有者による森林整備の実施が困難な水源地域や渓流域、急傾斜地等の森林における公益的機能の維持向上のため、各種団体等が行う間伐等に対して支援を行う。 ・環境保全林内の人の生活圏に近い里山林エリアにおいて、公益的機能向上とあわせて地域住民の生活環境の保全のため、不要木除去等に対して支援を行う。						
	③ 事業内容	○環境保全林整備事業費補助金 市町村森林整備計画で環境保全林に区分された水源林、渓畔林等において間伐を実施。 ・補助先：市町村、森林組合、生産森林組合、森林組合連合会、森林整備法人、林業事業体、特定非営利活動法人等 ・補助率：10/10(県の定める標準事業費が上限、関連条件整備38千円/ha)					
④ 目標	5年間の目標値	R4	R5	R6	R7	R8	
	計画 (人工林の間伐等) 10,500 ha	2,100	2,100	2,100	2,100	2,100	
⑤ 事業費	実績	3,058 ha	1,596	1,462			
	事業費(千円)		475,555	464,747			
	内訳	森林・環境税	475,555	464,747			
		(うち前年度繰越分)	128,377	122,018			
	他(国庫補助金等)	0	0				

2 自己評価

(1) 実績検証 (繰越分を除く。)

指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由	
⑥ 実績検証	I 事業投資	指標名 補助金額	669,487千円	464,135千円	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input checked="" type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	計画に対して69%の実績となったため。
		考え方 事業全体のコスト(翌年度繰越分を除く)				
	指標名					
	考え方					
II 事業結果	指標名 整備面積	2,100ha	1,462ha	<input type="checkbox"/> 成果が高い <input checked="" type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	計画に対して70%の実績となったため。	
	考え方 森林の公益的機能が回復した面積					
	指標名					
	考え方					

(2) 実施状況写真

⑦ 実施状況写真		
	【実施状況(関市神野地内)】	

(3) 効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】	○林野公共事業における事前評価マニュアルに基づき、洪水防止便益、水質浄化便益、流域貯水便益、土砂流出防止便益等について費用便益分析(B/C)を行う。 ○事業実施前後と実施3年後及び5年後の森林の状況の変化を確認(箇所を抽出して確認) 《モニタリング項目》(ア)林内の光環境、(イ)林床の被覆状況、(ウ)土壌の状況、(エ)生物多様性 ・実施前：事業実施主体が、(ア)、(イ)、(ウ)、(エ)を調査 ・実施後：事業実施主体が、(ア)を再度調査 ・完了確認時：農林事務所等が、(ア)、(イ)、(ウ)、(エ)を調査 ((イ)、(ウ)、(エ)は、書類内容等の確認) ・3年後及び5年後：県が、(ア)、(イ)、(ウ)、(エ)を調査
	【検証結果】	費用便益分析(B/C)を令和6年度と令和8年度に行い、計画の中間と最終時点における効果検証を行う。なお、モニタリングの結果は現在取りまとめを行っているため、費用便益分析(B/C)と合わせて今後報告していく。

(4) 自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input type="checkbox"/> 高く評価できる <input checked="" type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・令和5年度実績は計画に対し70%の実績となりました。 ・天候が安定し、降水量が少なく、労働力に余力が見込まれる年度末から年度当初(3月から5月)の事業量拡大に努めましたが、事業地の確保に時間を要したなどの理由により、計画を下回りました。 ・林業事業体が3月から5月に事業を実施できるよう、引き続き計画的な事業地の確保や作業の早期着手など、適切な進捗管理の実施を働きかけ、3月から5月にかけての事業量拡大を図ります。

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	○概ね順調に事業が行われている。 ・事業実施後10年以上経過した林分もあることから、目標の公益的機能を満たす効果があったことを検証する必要がある。

令和5年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	林政部
担当課・係名	森林活用推進課・森林活用係
担当者名	

1 事業概要

①概要等	実施事業年度	令和5年度	③事業内容	○里山林整備事業費補助金 【危険木の除去タイプ】 ・対象森林:生活保全林 ・補助率等:必要経費積上げ額以内の額(共通仮設費、間接費は国が定める率以内とする。) 【森林地域外危険木の除去タイプ】 ・事業内容:地域住民から除去の要望が強い森林計画対象外の危険木で市町村が特に必要と認めるもの ・補助率:2/3(上限100万円/箇所) ・事業主体:市町村							
	計画・評価年月日	令和4年12月22日/ 令和6年7月12日									
	部門	森林部門									
	事業名	里山林整備事業(①危険木の除去)									
	事業概要	「生活保全林」等内の地域住民の生活に支障をきたす危険木の除去									
②事業目的	事業開始年度	平成26年度	④目標	5年間の目標値							
				R4	R5	R6	R7	R8			
	・人命に関わる可能性の高い保全対象(民家等)への、倒木の恐れがある樹木を除去することにより、地域住民の生活環境の保全を図る。			計画	350 箇所	70	70	70	70	70	
				実績	127 箇所	76	51				
				⑤事業費	事業費(千円)		142,814	115,013			
					内訳	森林・環境税	136,298	110,718			
						(うち前年度繰越分)	0	0			
						他(国庫補助金等)	6,516	4,295			

2 自己評価

(1)実績検証(繰越分を除く。)

指標区分	指標名・考え方		計画値	実績値	評価区分	理由
⑥実績検証	I 事業投資	指標名 補助金額	121,314千円	110,576千円	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	計画に対して91%の実績となったため。
		考え方 事業全体のコスト				
	指標名					
	考え方					
II 事業結果	指標名 危険木の除去(森林地域外を除く)箇所数	70箇所	46箇所	<input type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input checked="" type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	70箇所を計画したが、要望は46箇所(66%)となったため。	
	考え方 森林内の危険木を除去した箇所数					
	指標名					
	考え方					

(2)実施状況写真

⑦実施状況写真		
	【事業実施前】	【事業実施後】

(3)効果検証

⑧効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 ①検証項目:整備後の里山の状況、事業主体や地域住民の評価 ②検証方法:アンケートによる ③検証対象地:抽出箇所(1事業実施箇所につき1団体以上) ④検証頻度:整備後の1回(翌年度5月)	
	【検証結果】 アンケート調査結果は以下のとおり。 ○森林・環境税を活用しての里山林整備(危険木の除去):「とても良かった」良かった 100.0% ○森林の保全再生について意識は高まった :「非常にそう思う」「ある程度そう思う」 90.7% ○住宅周辺の安全・安心 :「非常に向上した」「ある程度向上した」 97.6%	

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

総合評価	理由
<input type="checkbox"/> 高く評価できる <input checked="" type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・地域の要望に沿った里山林整備(危険木の除去)を推進しています。 ・計画箇所数70箇所に対し、実績は46箇所となりましたが、実施した箇所における地域住民等へのアンケートでは97%以上が「整備して良かった」、「住宅周辺の安全・安心が向上した」と回答があり、地域のニーズに応えた事業であることが分かる一方、難しい場所での伐採が多く1箇所当たりの費用は高くなっています。 ・近年、岐阜県内では「台風による風倒木」や「大雪による雪害木」など新たな危険木が広範囲で発生していないことから要望は減少していますが、住民の安全・安心に資する重要な事業であるため、引き続き、効果的な事業実施に努めます。

3 第三者評価

⑩第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	○概ね順調に事業が行われている。 ・評価の方法については、要望量に対してどうだったかを評価することなど、見直しを検討する必要がある。

令和5年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	林政部
担当課・係名	森林活用推進課・森林活用係
担当者名	

1 事業概要

① 概要等	実施事業年度	令和5年度	③ 事業内容 ○里山林整備事業費補助金 【バッファーズーンの整備】 ・対象森林:生活保全林 ・補助率等:上限700千円/ha	④ 目標	5年間の目標値	R4	R5	R6	R7	R8	
	計画・評価年月日	令和4年12月22日/ 令和6年7月12日			計画	200 箇所	40	40	40	40	40
	部門	森林部門			実績	83 箇所	44	39			
	事業名	里山林整備事業(②バッファーズーンの整備)			⑤ 事業費	事業費(千円)	41,599	56,932			
	事業概要	野生鳥獣等による被害を軽減するためのバッファーズーンの整備				内訳	森林・環境税	40,174	44,963		
事業開始年度	平成26年度		(うち前年度繰越分)	0	0						
			他(国庫補助金等)	1,425	11,969						

2 自己評価

(1)実績検証 (繰越分を除く。)

指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由	
⑥ 実績検証	I 事業投資	指標名 補助金額	49,232千円	44,963千円	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	計画箇所数を概ね達成したうえで、実績額を91%に抑えることができたため。
		考え方 事業全体のコスト				
	指標名					
	考え方					
II 事業結果	指標名 バッファーズーンの整備箇所数	40箇所	39箇所	<input checked="" type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	計画に対して98%の実績となったため。	
	考え方 バッファーズーンを整備した箇所数					
	指標名					
	考え方					

(2)実施状況写真

⑦ 実施状況写真		
	【事業実施前】	【事業実施後】

(3)効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】	①検証項目:整備後の里山の状況、事業主体や地域住民の評価 ②検証方法:アンケートによる ③検証対象地:抽出箇所(1事業実施箇所につき1団体以上) ④検証頻度:整備後の1回(翌年度5月)
	【検証結果】	アンケート調査結果は以下のとおり。 ○森林・環境税を活用しての里山林整備(バッファーズーンの整備):「とてもよかった」「よかった」96.8% ○今後、森林の保全再生活動に関わりたい:「非常にそう思う」「ある程度そう思う」93.5% ○野生鳥獣の住宅等への出没:「非常に減りそうだ(減った)」「少し減りそうだ(減った)」73.4% ○野生鳥獣による農業被害:「非常に減りそうだ(減った)」「少し減りそうだ(減った)」66.7%

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・地域の要望に沿った里山林整備(バッファーズーンの整備)を推進しており、令和5年度の整備箇所は39箇所と、概ね計画どおりの実績となりました。 ・地域住民に対するアンケートでは、里山林整備を行って良かったという意見が96.8%となり、地域のニーズに応えた整備が実施できました。 ・野生動物による被害の軽減には、バッファーズーンの整備に加えて整備後の管理など様々な対策も重要であることから、引き続き、関係部署と情報共有を行いながら効果的な事業実施に努めます。

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	○順調に事業が行われている。 ・整備後のアンケート調査について、回答だけでなく、その理由を記入できるような工夫があると良い。

令和5年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	林政部
担当課・係名	森林経営課・整備係
担当者名	

1 事業概要

① 概要等	実施事業年度	令和5年度	③ 事業内容 ○脱炭素社会に貢献する森づくり事業費補助金 市町村森林整備計画で環境保全林に区分された被害森林や天然更新が困難な森林において、植栽等を実施(人工造林、下刈り、雪起こし、鳥獣防止施設等整) ・補助先 市町村、林業事業者等 ・補助率 定額(県の定める標準事業費) ・市町村森林整備計画に定められた樹種や成長が早い早生樹等が対象				
	計画・評価年月日	令和4年12月22日/ 令和6年7月12日					
	部門	森林部門					
	事業名	脱炭素社会に貢献する森林づくり事業(①被害森林等での早生樹等の植栽等)					
	事業概要	被害森林等の再造林への助成					
② 事業目的	事業開始年度	令和4年度					
	・脱炭素社会に貢献するため、環境保全林内の被害森林や天然更新が困難な森林において、早生樹等の植栽を進め、CO ₂ の吸収量を増やすための森林づくりを推進する。						
④ 目標	5年間の目標値	R4	R5	R6	R7	R8	
	計画 (植栽等整備) 100 ha	20	20	20	20	20	
⑤ 事業費	実績	33.36 ha	3.76	29.60			
	事業費(千円)		14,340	58,188			
	内訳	森林・環境税	14,340	58,188			
		(うち前年度繰越分)	0	29,976			
	他(国庫補助金等)	0	0				

2 自己評価

(1)実績検証 (繰越分を除く。)

指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由	
⑥ 実績検証	I 事業投資	指標名 補助金額	49,800千円	58,151千円	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	令和5年度実績の28,175千円に前年度繰越実績の29,976千円を加えると58,151千円となり達成率は116%となったため。
		考え方 事業全体のコスト(翌年度繰越分を除く)				
	指標名					
	考え方					
II 事業結果	指標名 整備面積	20ha/年	29.60ha/年	<input checked="" type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	令和5年度実績の12.28haに前年度繰越実績の17.32haを加えると29.60haとなり達成率は148%となるため。	
	考え方 森林の公益的機能が回復した面積					
	指標名					
	考え方					

(2)実施状況写真

⑦ 実施状況写真			施業箇所: 関市 中之保音戸 施業内容: 地拵え 植栽(ヒノキ・コンテナ苗) 幼齢木保護(チューブ) 施業面積: 2.00ha
----------	---	--	---

(3)効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 ①検証項目: 植栽木の成長に伴うCO ₂ 吸収量 ②検証方法: 植栽後の生長量(樹高・直径)を測定し、CO ₂ 吸収量を計測 ③検証対象地: 環境保全林 ④検証頻度: 1回(最終年度のみ)	
	【検証結果】 検証方法を確認するため、令和4年度の植栽地について、本年度にCO ₂ 吸収量の中間調査を実施予定。	

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・令和5年度実績は計画に対し、148%の実績となりました。 ・令和4年度繰越による春植栽と令和5年度予算による秋植栽を実施し、計画を上回りました。 ・引き続き、事業地の確保や低コスト化を働きかけ、事業量の拡大を図ります。

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	○順調に事業が行われている。 ・植栽樹種にヒノキが選ばれており、これはひとつの見識である。引き続き着実な事業の推進を望む。

令和5年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	林政部
担当課・係名	森林活用推進課・森林吸収源対策係 / 森林文化アカデミー・産学連携係
担当者名	

1 事業概要

① 概要等	実施事業年度	令和5年度	③ 事業内容 森林吸収源岐阜県モデル検討会の開催(①) オフセットクレジット評価検証プロジェクト研究会(①) 森林信託の仕組み検討プロジェクト研究会の開催(①) オフセットクレジット評価検証プロジェクト研究会の調査事業 森林吸収源対策普及啓発事業(②)						
	計画・評価年月日	令和4年12月22日 / 令和6年7月12日							
	部門	森林部門							
	事業名	脱炭素社会に貢献する森林づくり事業(②森林吸収源対策)							
	事業概要	森林クレジットを活用した森林吸収源対策の岐阜県モデル構築の検討							
② 事業目的	事業開始年度	令和4年度							
	・森林吸収によるオフセットクレジットの活用を基本に、森林吸収源対策の岐阜県モデル構築に向けた新たな仕組みを検討する。								
	④ 目標	5年間の目標値	R4	R5	R6	R7	R8		
		計画① (研究会等) 45回	9	9	9	9	9		
	計画② (説明会等) 5回	1	1	1	1	1	1		
実績①	16回	10	6						
実績②	3回	1	2						
⑤ 事業費	事業費(千円)		3,722	3,884					
	内訳	森林・環境税	3,722	3,884					
		(うち前年度繰越分)	0	0					
	他(国庫補助金等)	0	0						

2 自己評価

(1) 実績検証 (繰越分を除く。)

指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由	
⑥ 実績検証	I 事業投資	指標名 モデル検討会・研究会開催事業費	6,729千円	3,839千円	<input type="checkbox"/> 妥当である	計画額以内で実施することができたため。
		考え方 事業費のコスト			<input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である	
	指標名 普及啓発事業費	271千円	45千円	<input type="checkbox"/> あまり妥当でない		
	考え方 事業費のコスト			<input type="checkbox"/> 妥当でない		
II 事業結果	指標名 モデル検討会・研究会開催数	9回	6回	<input type="checkbox"/> 成果が高い	検討会・研究会の開催回数は計画を下回ったが、岐阜県独自の森林由来のカーボン・クレジット制度である「G-クレジット制度」を運用することができたため。	
	考え方 開催回数			<input checked="" type="checkbox"/> 概ね成果が高い		
	指標名 普及啓発事業開催数	1回	2回	<input type="checkbox"/> あまり成果がない		
	考え方 開催回数			<input type="checkbox"/> 成果がない		

(2) 実施状況写真

⑦ 実施状況写真			
	【研究会の開催】	【広葉樹資源量調査】	【セミナーの開催】

(3) 効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 ＜オフセットクレジット評価検証プロジェクト研究会の調査事業＞ ①検証項目 リモートセンシング技術を活用した広葉樹資源量の調査検証 ②検証方法 1～3年目:調査、検証 4～5年目:新たなクレジットモデルの構築に向け、調査、検証の結果を活用 ③検証対象地 実施箇所 ④効果の検証頻度 1回(最終年度のみ) ※最終年度以外は事業の実施状況(研究会における検討経過・普及啓発活動の実施状況など)を事業評価審議会において適宜報告する。	
	【検証結果】(事業実施状況の報告) ・広葉樹林の二酸化炭素吸収量のクレジット化に向けて、リモートセンシング技術を活用した、資源量調査方法について研究した。 県北部地域(高山市、飛騨市)31ha	

(4) 自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input type="checkbox"/> 高く評価できる <input checked="" type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・検討会及び研究会の開催回数は、計画を下回る6回でしたが、令和5年11月から岐阜県独自の森林由来のカーボン・クレジット制度である「G-クレジット制度」の運用を開始することができました。 ・制度運営上の課題等については、オフセットクレジット評価検証プロジェクト研究会等で検討してまいります。 ・森林信託の実施にあたっては、木材販売に加え、新たな収入源の確保が必要なことから、森林信託の仕組み検討プロジェクト研究会において、森林の様々な機能の経済価値化に関する研究を進めてまいります。 ・新たに5者がカーボン・クレジットの創出に取り組むなど、森林由来のカーボン・クレジット制度への関心は高まっています。

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	○概ね順調に事業が行われている。 ・引き続き着実な事業の推進を望む。

令和5年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	林政部
担当課・係名	県産材流通課・消費対策係
担当者名	

1 事業概要

① 概要等	実施事業年度	令和5年度	③ 事業内容 ○教育福祉関連施設の木造化・内装木質化 ・補助先:市町村、学校法人、社会福祉法人、医療法人、NPO法人等 ・補助率:木造化 17,000円/m ² 以内 木質化 10,000円/m ² 以内(ともに上限30,000千円)	④ 目標 5年間の目標値	R4	R5	R6	R7	R8		
	計画・評価年月日	令和4年12月22日/ 令和6年7月12日			計画	30 施設	6	6	6	6	6
	部門	森林部門			実績	9 施設	4	5			
	事業名	教育福祉関連施設木造化・木質化等促進事業(①木造化・内装木質化)			⑤ 事業費	事業費(千円)	1,661,423	3,630,585			
	事業概要	教育福祉関連施設等の木造化、内装木質化の助成			内訳	森林・環境税	59,826	75,805			
事業開始年度	平成24年度		(うち前年度繰越分)	27,676	30,000						
			他(国庫補助金等)	1,601,597	3,554,780						

2 自己評価

(1)実績検証(繰越分を除く。)

指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由	
⑥ 実績検証	I 事業投資	指標名 補助金額	94,850千円	75,776千円	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	計画に対して80%の実績となったため。
		考え方 事業を実施する団体等への補助金額				
	指標名					
	考え方					
II 事業結果	指標名 整備施設数	6施設	5施設	<input checked="" type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	県産材使用量が計画に対して192%となったため。	
	考え方 県森林づくり基本計画に定める計画値					
	指標名 県産材使用量	580m ³ /6施設	1,111m ³ /5施設			
	考え方 施設の整備で使用される県産材の材積					

(2)実施状況写真

⑦ 実施状況写真		
	【内装木質化:いわのだこどもの森(岐阜市)】	【木造化:美濃会館(美濃市)】

(3)効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 ①検証項目:利用者の声 ②検証方法:県が行う施設職員へのアンケート調査による ③検証対象地:全ての整備施設 ④検証頻度:施設利用者に1回(翌年度)	
	【検証結果】 ○利用者等の声 ・あたたかい落ち着いた雰囲気 ・温かみのある施設 ・木の香りが漂い、居心地が良い ・リラックス効果がある	

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・補助金額の実績は計画に対して80%となりました。また、整備施設数でも、計画に対し83%の実績となりました。 ・今後もより多くの児童施設等に木の良さを伝えることができるよう、ぎふ木造建築相談センターと連携して県産材の利用を促進していきます。

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	○概ね順調に事業が行われている。 ・事業目的の欄は、木のぬくもりや心地よさなど、木材を使うことの本来的な意義を強調して記載すると良い。

令和5年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	林政部
担当課・係名	県産材流通課・消費対策係
担当者名	

1 事業概要

① 概要等	実施事業年度	令和5年度	③ 事業内容	①学校等の机・椅子等の導入に対する支援 ・補助先:市町村、学校法人、社会福祉法人等 ・補助率:1/2以内(机イス等については上限18千円/セット) ②常設版木育ひろば設置に対する支援(ぎふの木育教材導入支援事業と併せて利用) ・補助先:市町村、社会福祉法人、NPO法人等 ・補助率:10/10以内(上限400千円)						
	計画・評価年月日	令和4年12月22日/ 令和6年7月12日								
	部門	森林部門								
	事業名	教育福祉関連施設木造化・木質化等促進事業(②木製品の導入)								
	事業概要	学校等の机・椅子等の導入の助成								
事業開始年度	平成24年度									
② 事業目的	・岐阜県木の国・山の国県産材利用促進条例に基づき、公共施設等における県産材利用をより一層促進するとともに、木材利用や環境保全に対する理解を深めるため、特に啓発効果の高い教育関連施設等における木製の机、椅子等の木製品導入を支援する。			④ 目標	5年間の目標値	R4	R5	R6	R7	R8
	計画	100 施設	20		20	20	20	20		
	実績	48 施設	18		30					
	⑤ 事業費	事業費(千円)	27,419		73,324					
	内訳	森林・環境税	12,980		33,778					
	(うち前年度繰越分)	0	5,020							
	他(国庫補助金等)	14,439	39,546							

2 自己評価

(1)実績検証 (繰越分を除く。)

指標区分	指標名・考え方		計画値	実績値	評価区分	理由
⑥ 実績検証	I 事業投資	指標名 補助金額(千円)	34,130千円	33,763千円	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	計画に対して99%の実績となったため。
		考え方 木製品を導入する施設等への補助金額				
	指標名					
	考え方					
II 事業結果	指標名 導入施設数	20施設	30施設	<input checked="" type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	計画に対して150%の実績となったため。	
	考え方					
	指標名					
	考え方					

(2)実施状況写真

⑦ 実施状況写真		
	【ロッカーの導入: こうよう保育園(多治見市)】	【机の導入: 福岡小学校(中津川市)】

(3)効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 ①検証項目: 利用者の声 ②検証方法: 県が行う事業主体へのアンケート調査による ③検証対象地: 全ての導入施設 ④検証頻度: 施設利用者に1回(翌年度)	
	【検証結果】 ○利用者等の声 ・生活に馴染みやすいので、木製品は好評 ・風合いがとても良い ・子どもに合わせた大きさや、材質に温かみがあると好評	

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・事業実績は導入施設数の計画に対し、150%と大きく計画を上回っています。 ・特に学校備品では、児童生徒が使用する机(天板のみ・机椅子セットを含む)の導入数が1,975脚(枚)と多く導入されました。 ・ぎふ木造建築ポータルにおいて優良事例の紹介などを強化し、今後も県産材の利用促進に努めていきます。

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	○順調に事業が行われている。 ・事業目的の欄は、木のぬくもりや心地よさなど、木材を使うことの本来的な意義を強調して記載すると良い。

令和5年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	林政部
担当課・係名	森林経営課・木質バイオマス産業係
担当者名	

1 事業概要

① 概要等	実施事業年度	令和5年度	③ 事業内容 ○木質バイオマス利用施設導入促進事業費補助金 ・補助先:市町村、学校法人、社会福祉法人、医療法人、NPO法人、民間事業者(多くの県民の利用が十分見込まれる商業・観光・レジャー事業等を営む者に限る。)その他知事が認めるもの ・補助率:導入経費の1/2以内の額 ・メニュー:①木質資源利用ボイラー(上限額25,000千円/施設) ②木質資源利用ストーブ(上限額500千円/台) ③アドバイザー派遣	5年間の目標値	R4	R5	R6	R7	R8
	計画・評価年月日	令和4年12月22日/ 令和6年7月12日							
	部門	森林部門							
	事業名	木質バイオマス利用促進事業(①木質バイオマス利用施設の導入)							
	事業概要	公共施設等における木質バイオマス利用施設の導入の助成							
事業開始年度	平成24年度								
② 事業目的	・森林内に放置された間伐材等の木質バイオマスをエネルギー資源として利用促進することにより、化石燃料から木質燃料への転換を誘導し、2050年カーボンニュートラルの実現による脱炭素社会づくりに寄与するため、公共施設や商業施設等へ木質燃料を利用するボイラーやストーブの導入を支援する。								
	④ 目標	計画① (ボイラー)	5 施設	1	1	1	1	1	1
		計画② (ストーブ)	150 台	30	30	30	30	30	30
	⑤ 事業費	実績①	0 施設	0	0				
		実績②	76 台	57	19				
事業費(千円)			32,678	16,938					
内訳									
森林・環境税			15,528	6,922					
(うち前年度繰越分)			0	0					
他(国庫補助金等)			17,150	10,016					

2 自己評価

(1)実績検証(繰越分を除く。)

指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由	
⑥ 実績検証	I 事業投資	指標名 補助金額(木質資源利用ボイラー)	8,455千円	0千円	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input checked="" type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	・計画に対して43%の実績となったため。 ・ボイラーの導入はなかったが、ストーブは計画に近い補助金交付ができたため。
		考え方 事業を実施する団体等への補助金額				
	II 事業結果	指標名 補助金額(木質資源利用ストーブ)	6,500千円	6,357千円		
		考え方 事業を実施する団体等への補助金額				
	I 事業投資	指標名 木質資源利用ボイラー導入施設数	1施設	0施設	<input type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input checked="" type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	・計画に対して、木質資源利用ボイラーは0%、薪・ペレットストーブは63%となったため。
		考え方 木質バイオマスの利用を促進する施設				
	II 事業結果	指標名 木質資源利用ストーブ導入台数	30台	19台		
		考え方 木質バイオマスの利用を促進する施設				

(2)実施状況写真

⑦ 実施状況写真			
	【導入された薪ストーブ及びペレットストーブ】		

(3)効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】	①検証項目:木質資源利用ボイラーや木質資源利用ストーブを導入した事業主体や施設利用者の声等 ②検証方法:県が行う事業主体へのアンケート調査 ③検証対象地:全ての導入施設 ④検証頻度:導入した翌年度
	【検証結果】	事業に対する事業主体からの評価は「とても良い」「良い」が100%であった。事業主体からの声として、地域内で燃料調達ができる点や、自然の多い場所で自然エネルギーを利用できる点を評価する意見が見られ、事業の継続やさらなる事業PRの必要性を求める意見が複数見られた。また、事務手続きの簡素化や、補助対象の条件緩和による対象拡大を求める意見も見られた。 一方で、燃料となる薪・ペレットの調達について、必要量の確保や価格上昇を心配する意見が見られた。

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input type="checkbox"/> 高く評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input checked="" type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・木質資源利用ストーブについては、多くの県民の来場が見込める公共施設や商業施設等において導入が進み、計画に対して63%の導入を達成することができました。 ・木質資源利用ボイラーについては、従来の主な導入先である温浴施設には一定の水準まで導入が進み、今後は、温浴施設以外への導入も目指して、木質バイオマスの活用方法を広げられるようサポート(ボイラー・ストーブの導入に向けた研修会等)を実施していきます。

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	○事業が停滞しており改善が必要である。 ・導入の要件を整理し、工夫して事業を実施する必要がある。

令和5年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	林政部
担当課・係名	県産材流通課・資源活用係
担当者名	

1 事業概要

① 概要等	実施事業年度	令和5年度	③ 事業内容 ○県民協働による未利用材の搬出促進事業費補助金 ・補助先:市町村(間接補助事業者 地域で組織する協議会, NPO法人, バイオマス加工事業者, 森林組合等林業事業体 など) ・補助率:市町村が助成する額の2分の1以内の額(上限額は以下のとおり) ・メニュー:①未利用材搬出(上限額:1.5千円/t) ②搬出機械導入(上限額:750千円/事業) ③伐採保護衣等導入(上限額:保護衣13千円/着, 保護帽6千円/個) ④研修会費用(上限額:30千円/回)	④ 目標 5年間の目標値 R4 R5 R6 R7 R8 計画 22,500 t 4,500 4,500 4,500 4,500 4,500 実績 7,799 t 4,353 3,446 ⑤ 事業費 事業費(千円) 26,858 22,241 内訳 森林・環境税 6,659 5,478 (うち前年度繰越分) 0 0 他(国庫補助金等) 20,199 16,763
	計画・評価年月日	令和4年12月22日/ 令和6年7月12日		
	部門	森林部門		
	事業名	木質バイオマス利用促進事業(②未利用材の搬出)		
	事業概要	市町村と地域住民との協働による未利用材の搬出の助成		
事業開始年度	平成24年度			
② 事業目的	・森林内に放置された間伐材等の木質バイオマスをエネルギー資源として利用促進することにより、化石燃料から木質燃料への転換を誘導し、2050年カーボンニュートラルの実現による脱炭素社会づくりに寄与するため、市町村及び地域住民の協働による森林内に放置された間伐材等の搬出を支援することで木質資源の循環利用を促進する。			

2 自己評価

(1)実績検証(繰越分を除く。)

指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由	
⑥ 実績検証	I 事業投資	指標名 補助金額(未利用材搬出)	6,750千円	5,145千円	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	・計画値に対して76%の実績のため。
		考え方 事業を実施する団体等への補助金額				
	指標名					
	考え方					
II 事業結果	指標名 未利用材の搬出量	4,500t	3,446t	<input type="checkbox"/> 成果が高い <input checked="" type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	・計画値に対して77%の実績のため。	
	考え方 各地域住民組織等により搬出された未利用材の量					
	指標名					
	考え方					

(2)実施状況写真

⑦ 実施状況写真	
	【未利用材を搬出する様子】

(3)効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 ①検証項目:未利用材の搬出に取り組む地域活動組織等の要望等 ②検証方法:県が行う事業主体へのアンケート調査による ③検証対象地:全ての実施箇所 ④検証頻度:実施した翌年度	
	【検証結果】 本事業に参加した21団体の評価は「良い」が10団体(47.6%)、「普通」が8団体(38.1%)、「あまり良くない」が2団体(9.5%)であった。「良い」の理由に、「会員と一緒に活動は楽しい」、「毎週通年の里山活動する意味が分かり、生活のリズムができています」、「山の整備が進んでいい」との意見があった。一方、「あまり良くない」と回答した団体からは、「現地確認、事業地の確保、造材、積込みといった作業が多く、効率的にできなかった」との意見があった。また、団体の今後の活動方針を尋ねたところ、「今後も事業を継続する」、「補助金があれば継続する」との回答がほとんどで、「今回で事業をやめる」と答えた団体はなかった。	

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input type="checkbox"/> 高く評価できる <input checked="" type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・令和5年度の未利用材の搬出量は計画に対して77%であったものの、県内各所で前年度同数の21団体が活動し、参加人数は前年比の35人増の233人となりました。 ・木質燃料による低炭素循環社会の構築に向けて、より多くの地域住民の理解と参画を得て、活動の幅を広げ、継続的な活動が行われるよう、引き続き、本事業を推進していきます。

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	○概ね順調に事業が行われている。 ・引き続き着実な事業の推進を望む。

令和5年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	林政部
担当課・係名	森林活用推進課・木育推進係/ぎふ木遊館・管理調整係
担当者名	

1 事業概要

① 概要等	実施事業年度	令和5年度	③ 事業内容 ○ぎふ木遊館の管理・運営 幅広い世代を対象に木のおもちゃでの遊び等を通じて、ぎふ木育を体験できる場を提供 ・木育イベントの開催 ・木育プログラムを実施 ・木育の指導者を育成 ○ぎふ木育全県展開の推進 ・ぎふ木育指導者等ネットワークの推進 ・ぎふ木遊館、モリノス、ぎふ木育ひろばの連携強化 ・木育プログラム等の開発支援 ・ぎふ木遊館サテライト施設の整備	④ 目標 5年間の目標値 R4 R5 R6 R7 R8 計画 (施設入館者数) 210,000人 30,000 30,000 50,000 50,000 50,000 実績 94,047人 41,331 52,716 ⑤ 事業費 事業費(千円) 76,873 69,338 内訳 森林・環境税 70,698 69,338 うち前年度繰越分 0 0 他(国庫補助金等) 6,175 0
	計画・評価年月日	令和4年12月22日/ 令和6年7月12日		
	部門	森林部門		
	事業名	ぎふ木育推進事業(①-1ぎふ木遊館の管理・運営)		
	事業概要	「ぎふ木育」の常設・総合的な拠点を運営する		
事業開始年度	平成30年度			
② 事業目的	<p>・様々な世代(子ども~大人)・立場(指導者・作り手等)にある県民の方々が、だれでも、いつでも希望するときに、『ぎふの木』を核とした『学び』『交流・連携』『創造』『発信』のサービスを楽しみ、木育に関する新たな行動を展開できる常設の木育拠点「ぎふ木遊館」を運営する。</p> <p>・「ぎふ木育」を県全体に広く普及させるため、全県展開に欠かせない指導者の育成と活用、指導者の活躍の場として必要な既存施設・団体との連携、新たな地域拠点施設の整備等を行う。</p>			

2 自己評価

(1)実績検証 (繰越分を除く。)

指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由
⑥ 実績検証 I 事業投資	指標名 運営経費	79,138千円	69,338千円	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	入札等による経費の節減等により費用対効果の高い運営を行うことができたため。
	考え方 運営事業費				
	指標名				
	考え方				
II 事業結果	指標名 施設入館者数	30,000人	52,716人	<input checked="" type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	入館者の拡大を図るためSNSなどで効果的なPRを実施し、入館者数は計画に対して1.76倍と大幅に上回る事ができたため。
	考え方 木育に触れることができた人数				
	指標名				
	考え方				

(2)実施状況写真

⑦ 実施状況写真			
	【入館10万人達成】	【木育プログラムの様子】	【移動型木遊館の様子】

(3)効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】	○ぎふ木遊館の管理・運営 ①検証項目:利用者数、利用者の声 ②検証方法:県が行う利用者へのアンケート調査による ③検証対象地:1箇所(ぎふ木遊館内) ④検証頻度:アンケートは随時、集計・検証は年1回 ○ぎふ木育全県展開の推進 ①検証項目:指導者の活用状況 ②検証方法:県が行うぎふ木育ひろばへのアンケート調査による ③検証対象地:県内すべてのぎふ木育ひろば認定施設 ④検証頻度:年1回
	【検証結果】	来館者アンケート 実施時期:随時、回答数:629件、満足度結果:「満足」「やや満足」が98% 主な意見:「子どもが木に興味を持てるようになった。」「木にふれあう機会があって楽しい。」「普段あまり手にすることのない木のおもちゃで遊べた。」「木や木の実の名前が適所にあり、大人も学びとワクワクがある。」等

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・木製遊具や木のおもちゃでの遊びのサポート、木育プログラムなどを実施し、幅広い世代の方を対象に木育を推進することができました。 ・令和4年11月1日からは、来館者の利便性の向上を図るため、入館2部制から3部制に変更し、1日の入館者数の上限を140人から210人に増やしたこともあり、入館者数は計画値の約1.76倍と大幅に上回る事ができました。 ・今後とも各種広報等によりぎふ木遊館の魅力を周知していきます。

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	○順調に事業が行われている。 ・引き続き着実な事業の推進を望む。

令和5年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	林政部
担当課・係名	森林活用推進課・木育推進係
担当者名	

1 事業概要

① 概要等	実施事業年度	令和5年度	③ 事業内容 ○ぎふ木育全県展開の推進 ・ぎふ木育指導者等ネットワークの推進 ・ぎふ木遊館、モリノス、ぎふ木育ひろばの連携強化 ・木育プログラム等の開発支援 ・ぎふ木遊館サテライト施設の整備
	計画・評価年月日	令和4年12月22日/ 令和6年7月12日	
	部門	森林部門	
	事業名	ぎふ木育推進事業(①-2ぎふ木育の全県展開の推進)	
	事業概要	「ぎふ木育」を県全体に広く普及するための人材育成及び新たな地域拠点の整備等を行う	
② 事業目的	事業開始年度	令和5年度	④ 目標 5年間の目標値 R4 R5 R6 R7 R8 計画 (登録者数(累計)) 400人 250 300 350 400 実績 242人 242
	事業目的	「ぎふ木育」を県全体に広く普及させるため、全県展開に欠かせない指導者の育成と活用、指導者の活躍の場として必要な既存施設・団体との連携、新たな地域拠点施設の整備等を行う。	
⑤ 事業費	事業費(千円)		18,787
	内訳	森林・環境税	18,787
		(うち前年度繰越分)	0
		他(国庫補助金等)	0

2 自己評価

(1)実績検証 (繰越分を除く。)

指標区分	計画値	実績値	評価区分	理由	
⑥ 実績検証 I 事業投資	指標名 運営経費	82,353千円	18,787千円	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input checked="" type="checkbox"/> 妥当でない	中津川市及び高山市のサテライト施設整備が次年度へ繰越となり、計画に対して23%の実績となったため。
	考え方 運営事業費				
	指標名				
	考え方				
II 事業結果	指標名 ぎふ木育サポーター登録者数	250人	242人	<input checked="" type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	計画に対して97%の実績となったため。
	考え方 ぎふ木育サポーターに登録した人の人数				
	指標名				
	考え方				

(2)実施状況写真

⑦ 実施状況写真		
	【ネットワークづくり(ぎふ木育地域交流会)】	【ぎふ木育指導者交流会の様子】

(3)効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 ①検証項目:参加者数、参加者の声等 ②検証方法:参加者へのアンケート調査による ③検証対象:ネットワーク交流会、ぎふ木育ひろばでのイベント ④検証頻度:1回(実施年度3月)	
	【検証結果】 ・交流会参加者へのアンケートでは、「いろいろな方の活動を知ること自分の活動の振り返りができた」、「お互いに相談し合うことができて有意義だった」「行政とのつながりが出来て良い」など、好意的な意見が多数寄せられた。	

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input type="checkbox"/> 高く評価できる <input checked="" type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・ぎふ木遊館サテライト施設整備を次年度へ繰越したため事業費は計画を大幅に下回りましたが、サテライト施設は令和6年度に中津川市及び高山市で開館する予定です。 ・ぎふ木育サポーター登録者数については、令和5年度中に71人がぎふ木育サポーターとして登録したことにより、97%の実績となりました。 ・今後は、完成したサテライト施設とぎふ木遊館、モリノス等との連携により、「ぎふ木育」を県全体に広く普及するための人材育成を進めます。

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	○概ね順調に事業が行われている。 ・予定されているサテライト施設(2箇所)の整備が急がれるところである。

令和5年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	林政部
担当課・係名	森林活用推進課・木育推進係
担当者名	

1 事業概要



① 概要等	実施事業年度	令和5年度	③ 事業内容 ○ぎふの木育教材導入支援事業費補助金 ・木のおもちゃ等の導入経費の1/2以内(上限100千円/施設) ・木製品キットの導入経費の1/2以内(1キット当たり3千円を補助対象経費の上限) ・ぎふ木育教室を実施する場合、木育教材の導入経費の10/10(導入費用が20千円を超える部分は1/2)以内(1キット当たり3千円を補助対象経費の上限) ・ぎふ木育ひろば認定時、木育教材等の導入経費の10/10以内(上限100千円/施設)。地域支援拠点認定時、木育教材等の導入経費の10/10以内(上限200千円/施設)	④ 5年間の目標値					
	計画・評価年月日	令和4年12月22日/ 令和6年7月12日		計画	R4	R5	R6	R7	R8
	部門	森林部門		実績					
	事業名	ぎふ木育推進事業(②ぎふの木を使った教材の導入)		事業費(千円)	7,008	9,654			
	事業概要	ぎふの木を使った教材(おもちゃ、キット等)の導入の助成		内訳					
事業開始年度	平成24年度	森林・環境税	3,694	4,833					
② 事業目的	・将来の森林づくりを担う子どもたちに対し、木材利用や環境保全に対する理解を深めるとともに、「ぎふ木育」の取組みを進めるために、特に普及啓発効果の高い教育福祉関連施設等において、直接木を見て触れることのできる木のおもちゃ等や木製品キットの導入に対して支援することを目的とする。		(うち前年度繰越分)	0	0				
			他(国庫補助金等)	3,314	4,821				

2 自己評価

(1) 実績検証 (繰越分を除く。)

指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由	
⑥ 実績検証	I 事業投資	指標名 補助金額	5,393千円	4,833千円	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	計画に対して90%の実績となったため。
		考え方 木育教材を導入する施設への補助金額				
	指標名					
	考え方					
II 事業結果	指標名 導入施設数	60施設	72施設	<input checked="" type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	計画に対して120%の実績となったため。	
	考え方 木育教材を導入する施設の数					
	指標名					
	考え方					

(2) 実施状況写真

⑦ 実施状況写真		
	【ぎふの木のおもちゃ】	【中学校の技術科の授業で使用する木キット】

(3) 効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 ①検証項目: 利用者数、利用者の声 等 ②検証方法: 県が行う施設職員へのアンケート調査による ③検証対象: 全ての導入施設 ④検証頻度: 1回(翌年度5月)	
【検証結果】 ・導入した木育教材(木のおもちゃや木製品キット)の利用者数は延べ5,435名であり、多くの子どもに木とふれあい親しむ機会を設けることができた。 ・子どもたちや保護者へのアンケートでは、「非常に良かった」が70%、「良かった」が30%、併せて100%であり、木育教材に対する好意的な意見が占めた。 ・令和6年度にも補助事業を活用する予定のある施設は65%で、補助があることで導入の動機となったり、複数年にわたり継続して木育教室を開催できるとの意見があった。		

(4) 自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・ぎふ木遊館を利用する保育園等への事業紹介や、中学校技術科教員の集会での事業説明など広報に努め、木育教材の導入補助は計画に対して90%、導入した施設数は計画に対して120%の実績となりました。 ・引き続き、各施設において募集チラシやホームページで事業の趣旨等を周知し、次年度以降も多くの施設で「ぎふ木育」の教材が活用されるよう働きかけていきます。

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	○順調に事業が行われている。 ・引き続き着実な事業の推進を望む。

令和5年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	林政部
担当課・係名	森林活用推進課・緑化推進係・木育推進係
担当者名	

1 事業概要



① 概要等	実施事業年度	令和5年度	③ 事業内容 <緑と水の子ども会議> ・小中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校に対する環境教育の実施支援（講師の派遣、教材の提供、バス代負担等）(①) <ぎふ木育教室> ・幼稚園・保育園等の子育て関連施設を対象とする森と木に関する体験講座の実施（講師の派遣）(①) <市町村企画事業> ・市町村が主体となり、幅広い世代を対象として行う独自に企画する事業の活動費の助成(②)	5年間の目標値	R4	R5	R6	R7	R8			
	計画・評価年月日	令和4年12月22日/ 令和6年7月12日			④ 目標	計画① <small>(緑と水の子ども会議等参加者数)</small> 34,000 人	6,800	6,800	6,800	6,800	6,800	
	部門	森林部門				計画② <small>(市町村企画件数)</small> 55 件	11	11	11	11	11	
	事業名	ぎふ木育推進事業(③森や木、川に関する環境教育やぎふ木育教室の開催等)			⑤ 事業費	実績①	14,048 人	7,015	7,033			
	事業概要	子どもたち、一般市民を対象とした、森や木や川に関する環境教育				実績②	18 件	8	10			
事業開始年度	平成24年度	事業費(千円)	32,866	30,855								
② 事業目的	・子どもたち及び幅広い世代を対象に、ぎふの豊かな自然(森・川・里山など)の持つ様々な公益的機能やそれらの保全に関する正しい知識の提供、森・川・海のつながりを実感するためのフィールドを活かした環境教育、木に触れ合うことを通じて自然に親しむ体験活動などの実施に対し支援し、将来の清流の国ぎふを担う人づくりを推進する。		内訳									
			森林・環境税	26,031	26,295							
			(うち前年度繰越分)	0	0							
			他(国庫補助金等)	6,835	4,560							

2 自己評価

(1)実績検証(繰越分を除く。)

指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由	
⑥ 実績検証	I 事業投資	指標名 事業費	11,635千円	10,419千円	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	事業費は計画の90%、補助金額は計画の66%となったため。
		考え方 緑と水の子ども会議及びぎふ木育教室の開催に係る費用				
	指標名 補助金額	22,000千円	14,438千円			
	考え方 市町村が企画する事業の補助金額					
II 事業結果	指標名 ぎふ木育の参加者数	6,800人	7,033人	<input checked="" type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	採択件数は計画の91%となったが、参加者数は計画を上回ったため。	
	考え方 緑と水の子ども会議及びぎふ木育教室の参加者数					
	指標名 採択件数	11件	10件			
	考え方 市町村が独自に企画する事業の件数					

(2)実施状況写真

⑦ 実施状況写真		
	【緑と水の子ども会議(植栽体験)】	【ぎふ木育教室(自然物を使ったままごと遊び)】

(3)効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】	<緑と水の子ども会議・ぎふ木育教室> ①検証項目:実施団体等の職員が子供を観察した結果を調査 ②検証方法:実施報告書による ③検証対象地:全ての実施施設 ④検証頻度:1回
	【検証結果】	<市町村企画事業> ①検証項目:活動参加者数 ②検証方法:市町村からの実績報告書による ③検証対象地:全ての採択事業 ④検証頻度:1回
・ぎふ木育教室では、「木の変化を楽しみながら根気よく木を削り、木に愛着をもつことができた」「園の周りの自然をじっくりと五感で感じ、子どもたちの発見や気づきが多かった」という好意的な意見が多く見られた。 ・緑と水の子ども会議では、「改めて身近にある森林を知り、森林は私たちにとってかけがえのないものなんだと気づかされた」「チェーンソーで大木を切り倒す姿を見て強くあこがれた。将来、林業の仕事をやってみようと思った。」という好意的な意見が多く見られた。 ・市町村企画事業では、「親子で一緒に木に触れる体験が出来て良かった」「いつも見ている地元の山について初めて知ることが多く勉強になった」という好意的な意見が多く見られた。		

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input type="checkbox"/> 高く評価できる <input checked="" type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・計画を上回る、延べ7,033人の子どもたちが「緑と水の子ども会議」や「ぎふ木育教室」に参加しました。 ・市町村企画事業は、計画を下回る10件であったものの、4,660人が参加し、幅広い世代へぎふ木育を推進することができました。 ・引き続き、県内全域でぎふ木育が展開されるよう、事業を活用した森林環境教育や体験活動などの実施を積極的にPRしていきます。

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	○概ね順調に事業が行われている。 ・安全面に十分注意しながら、引き続き着実な事業の推進を望む。

令和5年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	林政部
担当課・係名	森林活用推進課・緑化推進係
担当者名	

1 事業概要

① 概要等	実施事業年度	令和5年度
	計画・評価年月日	令和4年12月22日/ 令和6年7月12日
	部門	森林部門
	事業名	森林空間活用促進事業(①観光道路周辺の観光景観林の整備)
	事業概要	景観としての価値が高い観光道路等沿いの森林の整備
事業開始年度	平成29年度	
② 事業目的	・観光道路等から眺望ができ、景観として価値が高く、観光客を呼び込み、地域活性化等に資することができる森林について、観光景観林として公的関与の高い管理・整備を推進することによって、各地域の優れた森林景観の形成を図る。	

③ 事業内容	観光景観林整備事業費補助金 ・補助先: 市町村 ・補助率: 不用木の除去(上限220千円/ha)、不用木の除去(伐採処理含む)(上限500千円/ha) 景観形成のための植栽(上限700千円/ha)、伐採木の搬出(上限 7千円/m3) 【観光景観林総合整備事業のみ】 関連条件整備 38千円/ha上乗せ、整備計画策定(上限 必要経費の範囲) 附帯施設整備 1/2以内(上限10,000千円)						
	④ 目標	5年間の目標値	R4	R5	R6	R7	R8
⑤ 事業費	計画	500 ha	100	100	100	100	100
	実績	122 ha	60	62			
	事業費(千円)		34,117	26,772			
内訳	森林・環境税		28,652	24,114			
	(うち前年度繰越分)		0	0			
	他(国庫補助金等)		5,465	2,658			

2 自己評価

(1)実績検証 (繰越分を除く。)

⑥ 実績検証	指標区分		計画値	実績値	評価区分	理由
	指標名	考え方				
I 事業投資	指標名	補助金額	29,700千円	24,114千円	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	計画に対して81%の実績となったため。
	考え方	事業全体のコスト				
	指標名					
	考え方					
II 事業結果	指標名	整備面積	100ha	62ha	<input type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input checked="" type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	計画に対して62%の実績となったため。
	考え方	森林の公益的機能が改善した面積				
	指標名					
	考え方					

(2)実施状況写真

⑦ 実施状況写真		
	【事業実施箇所の整備状況(恵那市内)】	

(3)効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 ①検証項目: 整備後の事業主体や地域住民の声の調査 ②検証方法: アンケートなどによる ③検証対象地: 抽出による ④検証頻度: 整備後の1回(翌年度5月) ⑤開始時期: 令和5年度 【検証結果】 ○事業実施に対し高い評価を得られた。以下は、寄せられた意見のうち主なもの ・道路際は林内整理が進み、景観が良くなった。 ・多くの方に美しくなった街道を訪れてほしい。 ・森林所有者や観光客等すべての人に森林整備の重要性を伝えることのできるよい事業である。 ・「通行の見通しが良くなった」、「景観も良くなった」これからもどんどん進めてほしい。	

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input type="checkbox"/> 高く評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input checked="" type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・計画整備面積100haに対し、実績は62haとなりました。事業開始から7年が経過し、整備しやすい事業地が減少する一方で、境界確認や所有者特定に手間や時間を要する箇所が多くなったことが考えられます。 ・一方で、事業主体や地域住民からは、整備の効果を実感した旨の意見が寄せられており、事業に対する期待も高いことから、採択要件の見直しを行いながら整備を進めていきます。

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	○事業がやや停滞しており改善が必要である。 ・境界確認や所有者特定などを工夫しながら、事業を実施する必要がある。

令和5年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	林政部
担当課・係名	森林活用推進課・森林サービス産業推進係
担当者名	

1 事業概要

① 概要等	実施事業年度	令和5年度	③ 事業内容	○森林空間施設整備促進事業費補助金 【施設整備タイプ】 ・補助上限額:5,000千円/施設(事業の実施は1回/施設限りとする) 【既存施設改修タイプ】 ・補助上限額:3,000千円/施設(事業の実施は1回/施設限りとする)						
	計画・評価年月日	令和4年12月22日/ 令和6年7月12日								
	部門	森林部門								
	事業名	森林空間活用促進事業(②森林空間の活用を図るための施設の設置・改修)								
	事業概要	森林空間の活用を図るための施設の設置・改修								
② 事業目的	事業開始年度	平成24年度(里山林整備事業で実施)	④ 目標	5年間の目標値	R4	R5	R6	R7	R8	
	・森林公園等の森林空間における新規の施設整備や既存施設の改修を支援し、健康、観光、教育等、森林空間の新たな活用を図る。			計画	40 施設	8	8	8	8	8
⑤ 事業費			内訳	実績	22 施設	12	10			
	事業費(千円)			事業費(千円)	27,612	40,468				
	森林・環境税			森林・環境税	24,210	35,036				
		(うち前年度繰越分)	(うち前年度繰越分)	0	0					
		他(国庫補助金等)	他(国庫補助金等)	3,402	5,432					

2 自己評価

(1) 実績検証 (繰越分を除く。)

指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由	
⑥ 実績検証	I 事業投資	指標名 補助金額	45,000千円	35,036千円	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	計画に対して78%の実績となったため。
		考え方 事業全体のコスト				
	指標名					
	考え方					
II 事業結果	指標名 実施箇所数	8施設	10施設	<input checked="" type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	計画に対して125%の実績となったため。	
	考え方 施設整備及び既存施設改修実施箇所数					
	指標名					
	考え方					

(2) 実施状況写真

⑦ 実施状況写真		
	【鷲ヶ岳アルプスアドベンチャー(郡上市)】	【North Village Hirugano Camping Fields(郡上市)】

(3) 効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 ①検証項目:整備後の施設の状況、事業主体や地域住民の評価 ②検証方法:アンケートによる ③検証対象地:1事業実施箇所につき1団体以上 ④検証頻度:整備後の1回(翌年度5月)	
	【検証結果】 アンケートの結果、「当事業で施設が整備されることにより、地域の森林空間がより利用しやすくなったと思いますか」との問いに対して「非常にしやすくなった」、「ある程度しやすくなった」と回答した事業主体が8割以上であった。 また、「今後、この森林空間を地域全体で保全していこうと思いますか」との問いに対して「非常にそう思う」、「ある程度思う」との回答が9割以上であった。	

(4) 自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・新規の施設整備や改修により、地域の森林空間の利用促進に貢献することができたほか、森林保全の意識を高める結果にもなりました。 ・森林空間を活用した施設の設置・改修に関するニーズは高く、令和5年度は予算を超える要望がありました。 ・令和5年度から補助対象として拡充した民間事業者からの要望も多いことから、更なる森林空間の活用を推進してまいります。

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	○順調に事業が行われている。 ・引き続き着実な事業の推進を望む。

令和5年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	林政部
担当課・係名	森林活用推進課・森林サービス産業推進係
担当者名	

1 事業概要

①概要等	実施事業年度	令和5年度	③事業内容 ○普及促進 森林空間の活用を促進するため、企業や団体等に向けたセミナーの開催や先進事例調査を実施						
	計画・評価年月日	令和4年12月22日/ 令和6年7月12日							
	部門	森林部門							
	事業名	森林空間活用促進事業(③森林空間を活用した活動の普及促進)							
	事業概要	森林空間を活用した活動の普及促進							
②事業目的	事業開始年度	令和4年度	④目標	5年間の目標値	R4	R5	R6	R7	R8
	・森林空間活用の推進母体となる「ぎふ森のある暮らし推進協議会」を設立し、企業・団体等の様々な知見を活用し、多様な主体との連携により森林空間の活用を促進する。			計画 (協議会会員数(者)累計) 100者	60	70	80	90	100
⑤事業費			実績	152者	142	152			
			事業費(千円)	2,489	1,070				
			内訳	森林・環境税	2,489	1,070			
			(うち前年度繰越分)	0	0				
			他(国庫補助金等)	0	0				

2 自己評価

(1)実績検証 (繰越分を除く。)

指標区分	指標名・考え方		計画値	実績値	評価区分	理由		
⑥実績検証	I 事業投資	指標名 事業費	1,922千円	1,070千円	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input checked="" type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	県施設の利用等により、経費節減に努めたことにより、計画に対して57%の実績となったため。		
		考え方 事業全体のコスト						
	II 事業結果	指標名 (仮称)森林サービス産業推進協議会会員数(者)累計	70者	152者			<input checked="" type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	計画どおり令和4年度から10者増となったため。
		考え方 新たに設置する協議会に入会した企業等の数						
	指標名							
	考え方							

(2)実施状況写真

⑦実施状況写真		
	【森林サービス産業推進特別セミナー(岐阜市)】	

(3)効果検証

⑧効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 ①検証項目: セミナー、人材育成等に参加した企業・団体等の声、活動状況等 ②検証方法: アンケートによる ③検証対象: 企業・団体等 ④検証頻度: 1回(翌年度5月)	
【検証結果】 「森林サービス産業推進特別セミナー」実施後のアンケートでは、「セミナーに参加し、森林サービス産業への興味・関心が高まったか」との問いに対し、90%以上から「高まった」との回答を得た。		

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨自己評価	総合評価	理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・協議会会員数は前年度より10者増え、セミナーや交流会等へ多くの会員が参加するなど、森林サービス産業への関心は高まっています。 ・「ぎふ森のある暮らし推進協議会」と連携した県内森林サービス産業の育成・支援として実施したセミナーへは、300名以上の参加者があり、企業や団体等に対して森林サービス産業をPRすることができました。 ・引き続き、森林サービス産業に関するセミナー等を開催し、「ぎふ森のある暮らし推進協議会」の新規入会者数の増加に努めるとともに、県内森林サービス産業の育成・支援を推進してまいります。

3 第三者評価

⑩第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	○順調に事業が行われている。 ・引き続き着実な事業の推進を望む。

令和5年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	農政部
担当課・係名	農村振興課・鳥獣害対策係
担当者名	

1 事業概要

①概要等	実施事業年度	令和5年度	③事業内容 〇市町村等が行うニホンジカ捕獲への支援、集落ぐるみによる捕獲の体制づくりの支援、県が主体となった広域捕獲 1 市町村が作成する事業計画に基づく捕獲に対する支援 補助対象：市町村、地域協議会、農業協同組合、森林組合、農業共済組合、漁業協同組合等 ①ニホンジカの個体数調整捕獲に対する助成（捕獲報償費 15千円/頭、捕獲に必要な物品購入費 200千円以内） ②わな捕獲を中心とした捕獲体制の整備に対する助成（地域住民が主体的にわな捕獲を行う体制を構築するために必要な経費 1,000千円/地区以内） 2 わなによる捕獲技術の向上に係る研修会の開催(委託) 3 県が主体となったニホンジカの捕獲(委託) 4 被害防止捕獲等に従事する市町村等職員の育成に対する助成（銃猟免許の新規取得・猟銃の所持許可・銃器等の購入に係る経費 上限500,000円/人）						
	計画・評価年月日	令和4年12月22日/ 令和6年7月12日							
	部門	環境部門							
	事業名	野生鳥獣個体数管理事業(①ニホンジカの個体数管理を目的とした捕獲等)							
	事業概要	ニホンジカの個体数管理を目的とした捕獲に係る支援等							
②事業目的	事業開始年度	令和4年度							
	事業目的		・個体数管理を目的としたニホンジカの捕獲実施により、農林業や生活環境、生態系等への被害軽減を図る。						
	④目標	5年間の目標値		R4	R5	R6	R7	R8	
		計画	(ニホンジカの捕獲数)	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	
			実績	12,999 頭	6,300	6,699			
⑤事業費		事業費(千円)		102,557	111,445				
	内訳	森林・環境税	100,807	105,440					
		他(国庫補助金等)	1,750	6,005					

2 自己評価

(1)実績検証（繰越分を除く。）

指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由	
⑥実績検証	I 事業投資	指標名 事業費	120,000千円	105,440千円	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	計画に対し、87.8%の事業費を活用し、ニホンジカの捕獲を実施できたため。
		考え方 事業全体のコスト				
	指標名					
	考え方					
II 事業結果	指標名 捕獲数(個体数調整捕獲事業・指定管理鳥獣捕獲等事業)	7,000頭	6,699頭	<input checked="" type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	計画に対し、95.7%の6,699頭を捕獲することができたため。	
	考え方 どれだけ捕獲したか					
	指標名					
	考え方					

(2)実施状況写真

⑦実施状況写真		
	【わな捕獲技術向上研修会の様子】	

(3)効果検証

⑧効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 ①検証項目：捕獲数、野生鳥獣による農作物被害額 ②検証方法：市町村からの報告による ③検証対象地：事業を実施した全ての市町村 ④検証頻度：1回 ⑤開始時期：令和5年度	
	【検証結果】 捕獲数：個体数調整事業6,098頭(昨年比62頭減、20市町村による)、指定管理鳥獣捕獲等事業601頭(昨年比461頭増)。 野生鳥獣による農作物被害額：ニホンジカによる被害が最大となった平成25年度(10,514万円)から、近年は半分以下に減少している(令和4年度は4,350万円)。令和5年度被害額は現在調査中。	

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨自己評価	総合評価	理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・令和5年度は、目標には届かなかったものの、6,699頭の捕獲を行うことができました。 ・冬季に比較的温暖な気候となり、降雪が少なくなった影響で捕獲が進まなかった地域がありましたが、ニホンジカによる農作物被害額は近年5,000万円前後で推移を続けており、環境被害が顕著な地区も報告されているため、今後も農作物被害の軽減に向けて、継続的に個体数調整捕獲に取り組んでいきます。

3 第三者評価

⑩第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	〇順調に事業が行われている。 ・事業開始から10数年を経て、ニホンジカの個体群密度がどのように経年変化したのか示してほしい。

令和5年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	農政部
担当課・係名	農村振興課・鳥獣害対策係
担当者名	

1 事業概要

① 概要等	実施事業年度	令和5年度	③ 事業内容 1 事業内容 市町村及び漁業協同組合等が行うカワウ、カワアイサ及びサギ類の捕獲及び追い払い等に必要な経費を補助する。 2 補助率等 (1)補助率 10/10以内で予算の範囲内の額 (2)補助限度額 1,800千円/団体						
	計画・評価年月日	令和4年12月22日/ 令和6年7月12日							
	部門	環境部門							
	事業名	野生鳥獣個体数管理事業(②カワウ、カワアイサ及びサギ類の個体数管理を目的とした捕獲)							
	事業概要	カワウ等の捕獲等による被害対策活動に対する支援							
② 事業目的	事業開始年度	平成29年度							
	・「岐阜県カワウ被害対策指針」に基づき、春から夏にアユ漁場に飛来する「被害を与えるカワウ」が生息するコロニーやねぐら、飛来地の管理を行い、漁業被害の軽減及び環境被害の防止を図る。								
④ 目標		5年間の目標値	R4	R5	R6	R7	R8		
	計画	5,000羽	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000		
⑤ 事業費	実績	1,799羽	727	1,072					
	事業費(千円)		21,856	21,470					
	内訳	森林・環境税	20,208	20,194					
(うち前年度繰越分)		0	0						
		他(国庫補助金等)	1,648	1,276					

2 自己評価

(1) 実績検証 (繰越分を除く。)

指標区分	指標名・考え方		計画値	実績値	評価区分	理由
⑥ 実績検証	I 事業投資	指標名 補助金額	24,700千円	20,194千円	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	計画に対して81.8%の事業費を活用し、カワウの捕獲を実施できたため。
		考え方 事業がどれだけ実施されたか				
	指標名					
	考え方					
II 事業結果	指標名 カワウ等捕獲羽数	1,000羽	1,072羽	<input checked="" type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	計画に対して107.2%の1,072羽を捕獲することができたため。	
	考え方 どれだけカワウ等を捕獲したか					
	指標名					
	考え方					

(2) 実施状況写真

⑦ 実施状況写真		
	【防鳥系設置作業の様子(揖斐川町)】	【花火による追い払いの様子(揖斐川町)】

(3) 効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 ①検証項目:各漁協組合員の声、活動状況 ②検証方法:各漁協等からの報告、聞き取りによる ③検証対象地:事業実施主体管内 ④検証頻度:1回 【検証結果】 各漁協組合員の声:各漁協組合員の声:カワウ対策に大変役立っている、引き続き継続して支援されたい 等 活動状況:実施者27団体のうち、24団体が捕獲を実施し、カワウ998羽、カワアイサ36羽、サギ類38羽の計1,072羽を捕獲した。また、うち17団体がロケット花火、防鳥系、ドローンなどにより追い払い活動を行った。	

(4) 自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・漁業被害等抑制のためカワウ等の被害対策活動への支援を行い、令和5年度は目標を上回る1,072羽のカワウ等を捕獲するとともに、追い払いにより河川への飛来数を減らすことができました。 ・新たに対象としたサギ類の捕獲も進んでいる状況であり、引き続き活動支援を行い被害対策を推進します。

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	○順調に事業が行われている。 ・事業開始から10数年を経て、カワウやカワアイサの個体群密度がどのように経年変化したのか示してほしい。

令和5年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	環境生活部
担当課・係名	環境生活政策課・生物多様性係
担当者名	

1 事業概要

①概要等	実施事業年度	令和5年度
	計画・評価年月日	令和4年12月22日/ 令和6年7月12日
	部門	環境部門
	事業名	野生鳥獣個体数管理事業(③大学等と連携して行う野生動物管理に関する調査研究等)
	事業概要	岐阜県の野生動物管理に関する調査研究、政策提案及び人材育成
②事業目的	事業開始年度	平成24年度
	事業目的	<p>・平成24年に野生動物被害防止対策に係る寄附研究部門を岐阜大学に設け、官学が連携し野生動物の調査研究や人材育成に取り組んできたが、野生動物による被害防止対策の一層の強化を図るため、岐阜県と岐阜大学が共同で、実践的な野生動物管理を行うシンクタンクとしての役割を担う「岐阜県野生動物管理推進センター」を新たに設置する。</p> <p>・当センターでは、AI、ICT技術などを活用し、野生動物の生息状況のモニタリング調査を実施、その調査結果をもとに市町村が実施する鳥獣害対策への助言・支援や、農林業従事者、県民を対象とした研修・講座の実施など、野生動物を科学的かつ積極的に管理していく「戦略的被害対策」を推進する。</p>

③事業内容	①野生動物の生息状況調査・研究 ・野生動物広域カメラモニタリング調査・研究、ニホンザルの行動追跡、ニホンジカ等の高山帯への侵入状況の調査等 ②野生動物管理に対する技術指導 ・市町村等に対する効果的な捕獲手法・効果検証の指導等 ③人材育成・教育支援 ・鳥獣関係行政担当者向け研修会の実施、農林高校・森林文化アカデミー等の教育支援等 ④普及啓発 ・連続講座のオンライン開催、シンポジウム等による野生動物管理の重要性等の普及啓発等						
	④目標	5年間の目標値	R4	R5	R6	R7	R8
⑤事業費	計画	(市町村等への技術指導) 50件	10	10	10	10	10
	実績	21件	10	11			
	事業費(千円)		20,157	20,192			
内訳	森林・環境税		20,157	20,192			
	(うち前年度繰越分)		0	0			
	他(国庫補助金等)		0	0			

2 自己評価

(1)実績検証 (繰越分を除く。)

指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由			
⑥実績検証	I 事業投資	指標名 野生動物管理のためのシンクタンク機関の運営費	21,000千円/年	20,192千円/年	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	・計画に対して96%の実績となったため。		
		考え方 事業全体のコスト						
	II 事業結果	指標名 市町村等への技術指導件数	10件/年	11件/年			<input checked="" type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	・実績が計画を上回ったため。
		考え方 市町村等への知見・技術等の地域貢献						
指標名 野生動物管理に関する調査・研究成果の発表件数	15件/年	23件/年						
考え方 調査・研究成果の発信								

(2)実施状況写真

⑦実施状況写真			
	【技術指導の様子(飛騨市)】	【ツキノワグマをテーマにした連続講座(美濃市)】	【ニホンジカをテーマにした連続講座(岐阜市)】

(3)効果検証

⑧効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 検証項目 : 技術指導件数と指導の内容 検証方法 : 岐阜県野生動物管理推進センターからの活動実績報告による 検証対象地: 全ての技術指導実施場所 検証頻度 : 年1回 【検証結果】 県内の市町村などに計11件の技術指導等を行い、科学的データ、知見等に基づく助言、指導、支援を実施した。具体的な例としては、飛騨市の池ヶ原湿原におけるシカ・イノシシの被害対策の継続指導を行い、限られた予算の中で実行できる対策を提案した。美濃加茂市に対しては、鳥獣被害防止計画の策定に関する助言を行った。	

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨自己評価	総合評価	理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・県民等を対象に連続講座(3回)、シンポジウム(1回)を開催し、野生動物管理の課題や重要性等について発信しました。特に連続講座の1回目は県民の関心が高まっていた「クマ」をテーマとして、タイムリーな情報発信を行いました。 ・野生動物関係行政等におけるシンクタンク機関として論文8件、研究発表15件、合計23件の研究成果等を発表し、関係機関に還元しました。

3 第三者評価

⑩第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	○順調に事業が行われている。 ・引き続き着実な事業の推進を望む。

令和5年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	県土整備部
担当課・係名	河川課・維持係
担当者名	

1 事業概要

①概要等	実施事業年度	令和5年度	③事業内容 ・県内5流域において、NPO、地域住民等民間団体と行政とが連携し、ゴミの集積しやすい場所や樹木が繁茂している場所を洗い出し、集中的に清掃・整備を行い、流域が一体となった効率的な河川清掃モデルを確立し継続を図るため、県管理河川の河道内樹木の伐採・除去や、不法投棄廃棄物等の回収を行う。	④目標 5年間の目標値	R4	R5	R6	R7	R8		
	計画・評価年月日	令和4年12月22日/ 令和6年7月12日			計画	延べ100 河川	20	20	20	20	20
	部門	環境部門			実績	65 河川	31	34			
	事業名	自然生態系保全・再生事業(①上下流域が連携した河川清掃活動の実施)			⑤事業費	事業費(千円)	29,995	29,994			
	事業概要	上下流域が連携した河川清掃活動への支援			内訳	森林・環境税	29,995	29,994			
事業開始年度	平成24年度		(うち前年度繰越分)	0	0						
			他(国庫補助金等)	0	0						

2 自己評価

(1)実績検証 (繰越分を除く。)

指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由	
⑥実績検証	I 事業投資	指標名 事業費	30,000千円	29,994千円	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	事業費は計画を下回ったものの99%以上が達成されたため。
		考え方 河川清掃活動の実施費用				
	指標名					
	考え方					
II 事業結果	指標名 実施河川数	20河川	34河川	<input checked="" type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	実施河川数は計画に対して170%となったため。	
	考え方 連携して河川清掃を実施した河川数					
	指標名					
	考え方					

(2)実施状況写真

⑦実施状況写真	施業前		施業後	
	【相川(大垣市)における実施状況】			

(3)効果検証

⑧効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】	①検証項目: 回収した樹木や廃棄物の量 ②検証方法: 各土木事務所からの実績報告による ③検証対象地: 実施した回収作業すべて ④検証頻度: 1回 ⑤開始時期: 活動実施年度末
	【検証結果】	検証の結果、回収した樹木は約1,880m ³ 、不法投棄廃棄物は約28m ³ であった。 連携を図ったNPO法人や地域住民等民間団体と県とが協働し、流域全体を対象とした河川清掃活動に連帯して取り組むことにより、効率的な河川清掃モデルの確立と流域住民の河川環境及び水環境の保全に対する意識啓発を図ることができた。

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨自己評価	総合評価	理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・令和5年の計画20河川に対し、34河川において清掃等活動を実施しました。 ・NPO等と県が協働・連携し、流域全体で清掃活動を行うことにより、県民の河川環境保全意識が向上しました。 ・引き続き、NPO等と連携して要対策箇所を把握しながら、清掃等活動を推進します。

3 第三者評価

⑩第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	○順調に事業が行われている。 ・河川清掃モデルの全体構想及び清掃活動の継続性について示してほしい。

令和5年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	県土整備部
担当課・係名	河川課・維持係
担当者名	

1 事業概要

① 概要等	実施事業年度	令和5年度	③ 事業内容 ・県管理河川及び砂防施設に設置されている魚道672箇所を対象に、県民協働で年1回程度点検を行い、魚道の状態を把握する。点検を効果的・効率的に行うため、点検の際には、岐阜県自然共生工法研究会(魚道研究専門ワーキンググループ)と連携して作成した、魚道の機能を簡便に評価できる「清流の国ぎふ・魚道カルテ」を用いる。 ・点検を踏まえて、魚道としての機能が低下していると判断された箇所については、魚道内の堆積土砂の除去等を実施し、魚道の機能回復を図る。	④ 目標 5年間の目標値 R4 R5 R6 R7 R8 (健全な魚道の割合) 計画 80% 80 80 80 80 実績 87.5% 86.8 87.5	⑤ 事業費 事業費(千円) 44,983 19,983 内訳 森林・環境税 44,983 19,983 うち前年度繰越分 0 0 他(国庫補助金等) 0 0
	計画・評価年月日	令和4年12月22日/ 令和6年7月12日			
	部門	環境部門			
	事業名	自然生態系保全・再生事業(②河川魚道の改修及び適切な維持管理)			
	事業概要	県管理河川に設置された魚道の適切な維持管理の実施			
事業開始年度	平成24年度				
② 事業目的	・県は、長良川をはじめとした主要な河川で「魚がのぼりやすい川づくり」を推進し、魚道整備等によって魚類等の遡上・降下環境の改善対策を実施。 ・引き続き、整備した魚道の状態の把握と適切な維持管理によって、河川の連続性の確保を図り、魚がすみやすい環境の創出を図る。				

2 自己評価

(1)実績検証 (繰越分を除く。)

指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由			
⑥ 実績検証	I 事業投資	指標名 事業費	45,000千円	19,983千円	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	・機能回復工事について、修繕方法の再検討によりR5年度中の工事完成に至らなかったが、既に工事に着手し、令和6年度末完成見込みであり、これらを含めると計画事業費の99%以上が達成されているため。		
		考え方 魚道の適正な維持管理費用						
	II 事業結果	指標名 健全な魚道の割合	80%	87.5%			<input checked="" type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	・継続的に魚道点検を続け、経年劣化や豪雨による被災等の要因で機能不全に陥った箇所については必要に応じて修繕を実施し、健全な魚道の割合80%以上を達成したため。
		考え方 点検により健全と判断された魚道数						
指標名								
考え方								

(2)実施状況写真

⑦ 実施状況写真	 <p>施業前</p>	 <p>施業後</p>
	【藤古川(大垣市)における魚道の改善状況】	

(3)効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】	①検証項目: 魚類遡上調査 ②検証方法: 機能回復を実施した魚道における遡上可能魚類数の計測 ③検証対象地: 県管理河川および砂防施設に設置された魚道 ④検証頻度: 年1回程度 ⑤開始時期: 事業実施年度～翌年度
	【検証結果】	修繕前は土砂堆積により遡上不可能だった魚道において、魚類遡上調査を実施し、ヨシノボリ類63匹、アブラハヤ31匹等を確認することができた。 整備した魚道の状態の把握と適切な維持管理によって、河川の連続性の確保を図り、魚がすみやすい環境の創出を図ることができた。

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input type="checkbox"/> 高く評価できる <input checked="" type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・県管理河川及び砂防施設に設置された全ての魚道672箇所に対して点検を実施しました。 ・継続的に魚道点検を続け、経年劣化や豪雨による被災等の要因で機能不全状態に陥った箇所については必要に応じて修繕を実施し、健全な魚道の割合80%以上を達成しました。 ・機能回復工事については、修繕方法の再検討によりR5年度中の工事完成に至りませんでした。既に工事に着手し、令和6年度末完成見込みであり、これらを含めると計画事業費の99%以上が達成されています。 ・引き続き、簡易モニタリングの試行を進め、修繕を行った魚道の機能回復状態の評価や、補修事例集を共有し、より効率的な事業実施を図ります。

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見 ○概ね順調に事業が行われている。 ・遡上した魚の尾数について、現地の環境や時間による単位を明確に示してほしい。
---------	--

令和5年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	農政部
担当課・係名	農村振興課、農地整備課
担当者名	

1 事業概要

① 概要等	実施事業年度	令和5年度	③ 事業内容 ①事前調査:事業予定箇所の魚類生息調査 ⇒ 事業主体:県(水産研究所) ②水田魚道の設置⇒ 事業主体:県(農村振興課)*一般県民と協働で設置 ③農業用排水路や河川の落差解消工事に係る補助(農地整備課) ⇒・事業主体:市町村、土地改良区等・補助率:10/10、上限5,000千円 ④事後調査:事業箇所魚類生息調査 ⇒ 事業主体:県(水産研究所) ⑤環境学習会の開催等による普及啓発 ⇒ 事業主体:県(農村振興課・水産研究所)						
	計画・評価年月日	令和4年12月22日/ 令和6年7月12日							
	部門	環境部門							
	事業名	自然生態系保全・再生事業(③水田魚道の設置等による水みちの連続性確保及び効果検証)							
	事業概要	水田及び農業用排水路内の生態系回復と、環境改善の普及促進							
事業開始年度	平成24年度								
② 事業目的	・面的な広がりを持った水みちの連続性を確保し、河川や農地に生息する魚類の繁殖や生息空間を再生するとともに、地域住民や農業従事者等に対し、生態系回復の成果を基にした普及啓発活動を展開する。								
	④ 目標	5年間の目標値	R4	R5	R6	R7	R8		
		計画	20 地区	4	4	4	4	4	
	実績	13 地区	6	7					
	⑤ 事業費	事業費(千円)	3,298	3,607					
内訳		森林・環境税	3,298	3,607					
(うち前年度繰越分)		0	0						
	他(国庫補助金等)	0	0						

2 自己評価

(1)実績検証 (繰越分を除く。)

指標区分	指標名・考え方		計画値	実績値	評価区分	理由	
⑥ 実績検証	I 事業投資	指標名	ハード整備事業費	3,500千円	609千円	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	ハード整備は計画に対して17%、ソフト対策は計画に対して86%であったため。
		考え方	水田魚道設置、落差解消事業費				
	II 事業結果	指標名	ソフト対策事業費	3,500千円	2,999千円		
		考え方	効果検証、事業普及啓発事業費				
	I 事業投資	指標名	ハード整備に取り組む地区数	1地区	1地区	<input checked="" type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	ハード整備は計画に対して100%、ソフト対策は計画に対して200%の達成率となったため。
		考え方	水田魚道設置または落差解消地区数				
	II 事業結果	指標名	ソフト対策に取り組む地区数	3地区	6地区		
		考え方	住民協働による普及啓発活動の実施地区数				

(2)実施状況写真

⑦ 実施状況写真			
	【農業用排水路内の落差解消工事】	【水田内で繁殖した稚魚(養老町)】	【水田内における繁殖状況の確認(漁業者等との連携)】

(3)効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】	①検証項目:ア)水田内の魚類調査、イ)落差解消路線における魚類数 ②検証方法:ア)中干による調査 イ)農業用排水路調査 ③検証対象地:ア)水田魚道の設置地区、イ)落差解消された農業用排水路 ④検証頻度:年1回 ⑤開始時期:事業実施年度～翌年度
	【検証結果】	①検証項目:ア)水田魚道の設置によりフナやナマズなど親魚遡上が確認され、その結果、水田内においてフナ稚魚6,299尾、コイ稚魚400尾、メダカ稚魚4462尾、タモロコ稚魚132尾、ナマズ稚魚12尾の繁殖が確認された。 イ)河川・農業用水路の落差解消で魚類の種数/捕獲個体数の増加をほぼ確認(関市千疋:4種→12種/44個体→179個体、関市上白金:3種→9種/22個体→300個体、可児市今:4種→6種/213個体→305個体、養老町石畑:7種→5種/95個体→48個体) ②検証方法:ア)水田魚道の設置地区、イ)落差解消された農業用排水路 ③検証対象地:ア)1カ所(養老町下笠)、イ)4カ所(関市千疋、関市上白金、可児市今、養老町石畑) ④検証頻度:ア)年1回、イ)1日/1カ所 ⑤開始時期:事業実施年度～翌年度

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・計画に対して、ハード整備で100%、ソフト対策で200%の実績を達成しました。(地区数ベース) ・生態系水路を整備予定の農業用排水路と河川の接続部で落差解消を実施しており、より大きな効果が期待できます。 ・過去に設置した魚道において水田魚道の効果検証を行った結果、水田内に稚魚の繁殖が確認されたことから、水田魚道の設置により魚類の繁殖場としての水田の機能回復が図られたと考えます。

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	○順調に事業が行われている。 ・遡上した魚の尾数について、現地の環境や時間による単位を明確に示してほしい。

令和5年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	環境生活部
担当課・係名	環境生活政策課・生物多様性係
担当者名	

1 事業概要

①概要等	実施事業年度	令和5年度	③事業内容 ①生物多様性に関するシンポジウム等の開催 ②生物多様性に関する専門家講座の実施 ③絶滅危惧種の保全実施とそれを活用した子どもたちの保全体験 ④生物多様性に関する取組み情報等の配信							
	計画・評価年月日	令和4年12月22日/ 令和6年7月12日								
	部門	環境部門								
	事業名	自然生態系保全・再生事業(④生物多様性の保全・再生の普及啓発)								
	事業概要	シンポジウムの開催等による生物多様性の保全・再生の普及啓発								
②事業目的	事業開始年度	平成24年度	④目標	5年間の目標値	R4	R5	R6	R7	R8	
	・県民、企業、市町村、民間団体等の各主体が、それぞれの立場で生物多様性の保全について考え、行動に取り組む契機として、生物多様性シンポジウムを開催する。シンポジウムの開催にあたっては、より多くの県民に参加いただけるよう、DX技術を活用したデジタル配信を実施する。 ・民間や県が取り組む希少野生生物等の保護活動を教材とする出前講座、体験学習等により県民の学習の機会を提供する。			計画	(シンポジウム等の開催) 70回	14	14	14	14	14
				実績	60回	28	32			
				⑤事業費	事業費(千円)	1,000	961			
					内訳	森林・環境税	1,000	961		
うち前年度繰越分			0		0					
			他(国庫補助金等)	0	0					

2 自己評価

(1)実績検証 (繰越分を除く。)

指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由	
⑥実績検証	I 事業投資	指標名 生物多様性普及啓発に関する事業費	1,000千円	25千円	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	・生物多様性シンポジウムは対象を絞り込み、規模を縮小したことで減額となったが、計画以上の回数を開催することができたため。
		考え方 事業費のコスト				
	II 事業結果	指標名 希少種保全・体験等に関する事業費	1,000千円	936千円		
		考え方 事業費のコスト				
	I 事業投資	指標名 シンポジウム等実施回数	7回	26回	<input checked="" type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	・出前講座等を積極的に開催し、講習会等の開催合計は計画に対して倍以上の実績となったため。
		考え方 普及啓発等活動数				
	II 事業結果	指標名 希少種の保全体験等実施回数	7回	6回		
		考え方 保全体験等活動数				

(2)実施状況写真

⑦実施状況写真			
	【生物多様性シンポジウム】	【出前講座】	【イタセンバラの展示飼育】

(3)効果検証

⑧効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 検証項目 : 生物多様性や希少種保全に関する理解度 検証方法 : 参加者へのアンケート調査による 検証対象地 : 普及啓発活動等の実施場所 検証頻度 : 年1回	
	【検証結果】 小中学生をメインターゲットに外来種をテーマとしたシンポジウムを3月に開催した。このシンポジウムのアンケート結果は理解度が77%であった。この結果から、小中学生のやや難しい内容であったと考えられるため、改善が必要と考えられた。なお、満足度は83%であったことから、シンポジウムの開催効果は確認できた。	

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨自己評価	総合評価	理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・生物多様性に関するシンポジウムや講習会等を計32回開催し、1,068名に希少種の生態や絶滅危惧種の保全に関する啓発を行いました。 ・このうち3月に開催したシンポジウムは県民の関心が高まっている背景から「外来種」をテーマとするなど、関心の高さに応じた学習機会を提供できました。

3 第三者評価

⑩第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	○順調に事業が行われている。 ・引き続き着実な事業の推進を望む。

令和5年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	農政部、環境生活部
担当課・係名	農村振興課、環境生活政策課
担当者名	

1 事業概要

① 概要等	実施事業年度	令和5年度	③ 事業内容 ア【生態系保全団体支援事業】 生態系に配慮した農業用水路の整備、水田や用排水路等を活用した環境教育の実施など、里地里川の生態系を復活するモデル的取り組みへの支援 ・補助先：特定非営利活動法人、地域団体等 ・補助率：10/10(上限2,000千円/1団体) ・実施方法：公募により選定 ・公募による選定会議の費用含む。(200千円) イ【生態系保全市町村支援事業(農務部門)】 用排水路におけるスクミリンゴガイの駆除など、農地・農業用施設を対象とする生態系保全に取り組む市町村を支援 ・補助先：市町村 ・補助率：1/2(上限1,000千円/1市町村) ウ【生態系保全市町村支援事業(環境部門)】 貴重な自然環境の保全や特定外来生物の駆除など、生態系保全に地域住民と協働で取り組む市町村を支援 ・補助先：市町村 ・補助率：1/2(上限500千円、下限500千円/1市町村)
	計画・評価年月日	令和4年12月22日/ 令和6年7月12日	
	部門	環境部門	
	事業名	自然生態系保全・再生事業(⑤生態系保全・再生に係る活動支援)	
	事業概要	生態系保全活動の実施への支援	
	事業開始年度	団体支援、市町村支援(農務部門)：平成24年度 市町村支援(環境部門)：令和3年度	
② 事業目的	・団体等や、市町村がおこなう里地里川の生態系保全の取り組みを支援することにより、県内の里地里川における生態系保全につなげる。 ・貴重な自然環境の保全や特定外来生物の防除など、市町村が地域住民との協働で取り組む活動を支援し、地域の生態系の保全と再生を図る。		
	④ 目標	5年間の目標値 R4 R5 R6 R7 R8 計画 (団体・市町村支援数) 24 24 24 24 24 実績 120件 41件 21 20	
	⑤ 事業費	事業費(千円)	29,720 28,489
		内訳	森林・環境税 29,720 28,489 (うち前年度繰越分) 0 0 他(国庫補助金等) 0 0

2 自己評価

(1) 実績検証 (繰越分を除く。)

指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由	
⑥ 実績検証	I 事業投資	指標名 ア)補助金額	9,800千円	4,869千円	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	団体への補助は計画に対して50%、市町村への補助は計画に対して69%となっており、計画額より減額となったものの予算の範囲内で効果的に執行できたため。
		考え方 事業を実施する団体への補助金額				
		指標名 イ)補助金額	9,000千円	6,322千円		
	考え方 市町村(農務部門)への補助金額					
	指標名 ウ)補助金額	25,000千円	17,226千円			
	考え方 市町村(環境部門)への補助金額					
II 事業結果	指標名 ア)実施団体数	7団体	5団体	<input type="checkbox"/> 成果が高い <input checked="" type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	支援団体数は計画に対して71%、支援市町村数は計画に対して88%であり、広く活動が根付いているため。	
	考え方 生態系保全活動を実施する団体数					
	指標名 イ)実施市町村数	8市町村	9市町			
	考え方 事業を実施する市町村(農業用地)数					
	指標名 ウ)実施市町村数	9市町村	6市町			
	考え方 事業を実施する市町村(農業用地外)数					

(2) 実施状況写真

⑦ 実施状況写真			
	【生き物調査(郡上市)】	【ジャンボタニシ駆除作業(輪之内町)】	【オオハンゴンソウ駆除作業(高山市)】

(3) 効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有		
	【実施方法等】	ア【生態系保全団体支援事業】 実施方法等 ①検証項目：各団体の活動継続状況 ②検証方法：各団体からの活動実績報告(完了後3年間) ③検証対象：全ての補助金交付団体 ④検証頻度：年1回(3年間)	イ【生態系保全市町村支援事業(農務部門)】 実施方法等 ①検証項目：スクミリンゴガイ、ヒシ等の発生状況 ②検証方法：市町村からの発生状況報告 ③検証対象地：補助市町村(定点調査(1路線)) ④検証頻度：1回(翌年度)	ウ【生態系保全市町村支援事業(環境部門)】 実施方法等 ①検証項目：生態系保全に協働で取り組んだ地域住民の意識 ②検証方法：市町村からの参加住民アンケートの実施報告 ③検証対象：補助市町村(参加住民) ④検証頻度：年1回
	【検証結果】	ア【生態系保全団体支援事業】実施したすべての団体が過年度から継続して活動を続けており、地域に根付いた生態系保全の取り組みがなされている。 イ【生態系保全市町村支援事業(農務部門)】前年度までの実績やマニュアルの活用により、効率的な駆除が行われている。 ウ【生態系保全市町村支援事業(環境部門)】外来生物についての認知度が向上した、このような参加しやすいイベントをたくさん開催してほしいという意見の一方で、自治会の負担が大変大きいため市町村単位での実施、地元住民への周知がまだまだ足りないという意見もあった。		

(4) 自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input type="checkbox"/> 高く評価できる <input checked="" type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・採択された団体では、これまで実施してきた水田魚道を活用した生息状況調査、子どもたちを対象とした環境教育の実施など、里地里川の生態系を復活するモデル的な取り組みが行われました。 ・6市3町で活動を行い、スクミリンゴガイの成貝・卵7.6tを駆除することができました。 ・特定外来生物防除のみならず、貴重な自然環境の保全等の取組みを推進することで、生態系保全・再生に対する地域住民の意識向上が図られました。

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	○概ね順調に事業が行われている。 ・引き続き着実な事業の推進を望む。

令和5年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部署名	環境生活部・農政部
担当課・係名	環境生活政策課・脱炭素社会推進課・農地整備課
担当者名	

1 事業概要






①概要等	実施事業年度	令和5年度	③事業内容 ⑦脱炭素社会ぎふを支える人づくり推進事業 ・「森・里・川・海」自然体験交流プログラムや環境問題の体験と行動変容促進のためのプログラムの実施 ・「森・里・川・海」自然体験交流プログラムや環境問題の体験と行動変容促進のためのプログラムの実施 ⑧カーボン・オフセットに係る理解促進及び人材育成事業 ・カーボン・オフセット及びJクレジットセミナーの開催、ぎふ清流COOL CHOICE 学生アンパサダーの育成及び活用 ⑨次代の環境活動を担う人材育成支援事業 ・市町村が自ら企画・立案・実行する次代の環境活動を担う人材育成事業への支援 ⑩地域団体等が行う小水力発電施設を活用した環境教育推進事業 ・農業水利施設や水路等に設置した小水力発電施設を活用した環境学習を実施する団体を支援				
	計画・評価年月日	令和4年12月22日/ 令和6年7月12日					
部門	環境部門						
事業名	脱炭素社会ぎふづくり事業(①脱炭素社会ぎふを支える人づくり)						
事業概要	「脱炭素社会ぎふ」実現に向けた行動変容を実践する人づくり事業の実施						
事業開始年度	令和4年度						
②事業目的	・「脱炭素社会ぎふ」の実現を支える人づくりを進めるため、カーボン・オフセットや地球温暖化、環境負荷の軽減、自然環境の保全、生物多様性などの環境問題について、県民が自らの問題として考え、行動変容の実践につながるよう、理解促進のための啓発活動や、自然環境体験・環境学習などの実体験・学びの場での活動等の事業を実施する。						
	④目標	5年間の目標値	R4	R5	R6	R7	R8
⑤事業費	計画	(体験プログラム等参加者数) 2,500人	500	500	500	500	500
	実績	698人	290	408			
	事業費(千円)		25,259	18,502			
内訳	森林・環境税		17,854	18,041			
	(うち前年度繰越分)		0	0			
	他(国庫補助金等)		7,405	461			

2 自己評価

(1)実績検証 (繰越分を除く。)

指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由	
⑥実績検証	I 事業投資	指標名 事業費	11,000千円	9,894千円	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	・(⑦、⑧)計画に対して89%の実績となったため。 ・(⑨、⑩)計画に対して74%の実績となったため。
		考え方 県実施事業(⑦、⑧)のコスト				
	指標名 補助金額	11,000千円	8,147千円			
	考え方 市町村(⑤)・地域団体等(⑩)の活動に対する補助金額					
II 事業結果	指標名 参加者数	500人	408人	<input type="checkbox"/> 成果が高い <input checked="" type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	・(⑦、⑩)計画に対して81.6%の実績となったため。 ・(⑨)計画に対して100%の実績となったため。	
	考え方 体験プログラム等への参加者数					
	指標名 実施事業件数	4件	4件			
	考え方 市町村による人づくり活動が実施された件数					

(2)実施状況写真

⑦実施状況写真					
	【⑦水生生物の観察】	【⑧カーボン・オフセットセミナー】	【⑨学生アンパサダー育成研修】	【⑩第2回水都大垣かわまちテラス】	【⑩発電施設の見学】

(3)効果検証

⑧効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】	<⑦脱炭素社会ぎふを支える人づくり推進事業、 ⑧カーボン・オフセットに係る理解促進及び人材育成事業> <⑨次代の環境活動を担う人材育成支援事業、 ⑩地域団体等が行う小水力発電施設を活用した環境教育推進事業>
	①検証項目: 参加者数、参加前後における参加者の理解・関心、環境保全意識の向上 ②検証方法: アンケートによる ③検証対象地: 全ての実施事業 ④検証頻度: 事業実施の都度 ①検証項目: 各採択事業で設定された目標数値に対する達成状況、参加者数 ②検証方法: 事業実施主体からの実績報告書による ③検証対象地: 全ての採択事業 ④検証頻度: 年1回	
【検証結果】	⑦参加人数300人の目標数値に対し実績は348人、達成率116%であった。また、参加者に対するアンケートでは、回答者の95%が「自然環境への関心・理解が高まった」、「自然とかかわる意欲が高まった」と回答し、92%が「家庭で自然環境・環境保全に対する親子の会話がある」と回答した。 ⑧カーボン・オフセットセミナーにおけるアンケート回答者の85%が「参考になった」と回答し、54%が、「温室効果ガスの削減意欲が増した」と回答した。 ⑨学生アンパサダー育成研修におけるアンケート回答者の91%が、地球温暖化対策に関する自身の意識や行動が研修前と比べて変わったと回答した。 ⑩採択した4事業について、環境講座、自然環境活動などにおける合計参加人数1,186人の目標値に対し、実績が1,388人となり、85%の達成率となった。 ⑩令和5年度は参加者60人となり、目標(200人)に達しなかったが、参加した小学生から「小水力発電施設を見学することにより地球温暖化などの環境問題について考えるきっかけを持つことができた」等の感想もあり、「脱炭素社会ぎふ」を支える人づくりを推進することができた。2箇所の発電施設で見学会を計画していたが、1箇所の施設が見学会の前に故障し、復旧に時間を要するため。(現在も復旧作業中)	

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨自己評価	総合評価	理由
	<input type="checkbox"/> 高く評価できる <input checked="" type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・事業結果は、計画に対して81.6%の実績となりました。⑩において、発電施設の故障という不測の事態により環境学習ができず目標に達しませんでした。環境教育を実施した発電施設においては、「脱炭素社会ぎふ」を支える人づくりを推進することができたため概ね評価できます。 ・また、参加者からは「自然環境への関心・理解が高まった」、「温室効果ガスの削減意欲が増した」という声を多くいただいたことから、環境保全の取組みを後押しする効果が期待できます。

3 第三者評価

⑩第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	○概ね順調に事業が行われている。 ・引き続き着実な事業の推進を望む。

令和5年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	環境生活部
担当課・係名	廃棄物対策課・一般廃棄物係
担当者名	

1 事業概要

① 概要等	実施事業年度	令和5年度	③ 事業内容 地域循環共生圏促進事業費補助金 事業主体自らが計画から実行まで行う、地域循環共生圏構想の推進につながる活動(構想を知り広めるためのシンポジウム開催、関係する主体を増やしネットワークを構築するための事業、戦略を立てるための事業計画等の作成など)に対して支援 ・補助先:市町村、法人、団体等 ・補助率:補助対象経費の10/10(上限:1,000千円、下限:300千円) ・実施方法:公募により選定				
	計画・評価年月日	令和4年12月22日/ 令和6年7月12日					
	部門	環境部門					
	事業名	脱炭素社会ぎふづくり事業(②地域循環共生圏構想の促進)					
	事業概要	地域循環共生圏構想につながる活動に対する支援					
事業開始年度	令和4年度						
② 事業目的	・森林・河川など地域が有する「自然資源」、食糧生産・酸素供給などの生物多様性がもたらす恵みである「生態系サービス」、「資金・人材」などを活かして、自立・分散型の社会を形成しながらも、地域の特性に応じて地域資源を補完し支えあう「地域循環共生圏構想」について、市町村、団体・企業等が構想を推進するための支援を行う。						
	④ 目標	5年間の目標値	R4	R5	R6	R7	R8
		計画 (地域循環共生圏づくりプラットフォーム登録団体数) 25件	5	5	5	5	5
	⑤ 事業費	実績	0件	0	0		
		事業費(千円)	1,340	2,387			
内訳		森林・環境税	1,340	2,387			
	(うち前年度繰越分)	0	0				
	他(国庫補助金等)	0	0				

2 自己評価

(1)実績検証 (繰越分を除く。)

指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由	
⑥ 実績検証	I 事業投資	指標名 補助金額	5,000千円	2,387千円	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input checked="" type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	採択件数が計画の5事業に対し、3事業となったため。
		考え方 地域循環共生圏構想につながる活動への補助金額				
	指標名					
	考え方					
II 事業結果	指標名 地域循環共生圏づくりプラットフォーム登録団体数	5件	0件	<input type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input checked="" type="checkbox"/> 成果がない	採択した3事業とも、令和5年度中は導入部分の取組みが中心となり、プラットフォーム登録までには至らなかったため。	
	考え方 構想の実現に向けて取り組んだ地域数					
	指標名					
	考え方					

(2)実施状況写真

⑦ 実施状況写真				
	【里・山・川の保全・活用を通じた地域おこし(地域循環共生圏構想)準備事業】	【循環共生圏に関わる主体を増やしネットワークを構築するための事業】	【持続可能な山県「ローカルSDGs地域循環共生圏」推進事業】	

(3)効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 ①検証項目:各採択事業で設定された目標数値に対する達成状況 ②検証方法:事業実施主体からの実績報告書による ③検証対象地:全ての採択事業 ④検証頻度:年1回	
	【検証結果】 採択した3事業のうち2事業については、セミナー・会議、事例視察などにおける参加目標人数をそれぞれ270名、170名と設定していたが、参加実績は242名、74名となり、目標数値に対する達成状況は90%、44%となった。 残りの1事業はイベント型啓発事業を開催し、イベント参加者数を目標数値(4日計4,000名)としていたが、参加実績は4日計1,300名となり、目標数値に対する達成状況は32%となっている。	

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input type="checkbox"/> 高く評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input checked="" type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・事業結果は、計画に対して0%の実績となりました。これは、採択件数が計画の5事業に対し3事業にとどまったこと、また、採択した3事業ともプラットフォーム登録に向けたセミナーや先進事例視察など、導入部分の取組みが中心であったことによるものです。 ・一方で、各地域における自然環境の保全を絡めたまちづくりの必要性や地域特性の再確認など、今後の取組みに向けた検討などが進むとともに、多くの市民が参加するイベントが開催されるなど、「地域循環共生圏」の取組みが推進されました。

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	○事業が停滞しており改善が必要である。 ・他の脱炭素に関連する事業とまとめることも視野に入れ、事業を整理する必要がある。

令和5年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	環境生活部、林政部
担当課・係名	環境生活政策課・森林活用推進課
担当者名	

1 事業概要

①概要等	実施事業年度	令和5年度
	計画・評価年月日	令和4年12月22日/ 令和6年7月12日
	部門	共通部門
	事業名	清流の国ぎふ地域活動促進事業
	事業概要	各種団体等が行う森づくり・川づくり活動等に対する助成
②事業目的	事業開始年度	平成24年度
		・県内の法人、団体が主体となって自ら企画・立案・実行する創意工夫ある森づくりや川づくり及び水環境等の保全活動を支援する。

③事業内容	(1) 県民参画を促進する森づくり・川づくりの活動、(2) 水環境や生物多様性の保全を目指す活動、(3) 子どもたちのための森づくり・川づくりの活動、(4) 上記(1)～(3)の活動のうち、特に対策が必要である課題に対してモデル的に行われる活動 ・補助先: 団体、法人 ・補助率(1)～(3): 補助対象経費500千円以下: 10/10以内、補助対象経費500千円を超える分: 1/2以内 (補助金上限2,000千円/事業、下限300千円/事業) ・補助率(4): 補助対象経費1,000千円以下: 10/10以内、補助対象経費1,000千円を超える分: 1/2以内 (補助金上限2,250千円/事業、下限300千円/事業)						
	④目標	5年間の目標値	R4	R5	R6	R7	R8
⑤事業費	計画	250 件	50	50	50	50	50
	実績	105 件	52	53			
	事業費(千円)		49,196	43,413			
	内訳	森林・環境税	26,802	26,091			
	(うち前年度繰越分)	0	0				
	他(国庫補助金等)	22,394	17,322				

2 自己評価

(1) 実績検証 (繰越分を除く。)

指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由	
⑥実績検証	I 事業投資	指標名 補助金額	29,600千円	25,941千円	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	・計画に対して88%の実績となったため。
		考え方 森・川づくり活動等を行う団体等への補助金額				
	指標名					
	考え方					
II 事業結果	指標名 実施事業件数	50件	53件	<input checked="" type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	・計画に対して106%の実績となったため。	
	考え方 県民参加による、森・川づくり活動の件数					
	指標名					
	考え方					

(2) 実施状況写真

⑦実施状況写真		
	【長良川 川の学校事業(特定非営利活動法人 長良川自然学校)】	【おとなと子どもの里山クラフト体験(里山クラフトサークル)】

(3) 効果検証

⑧効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】	①検証項目: 活動参加者数 ②検証方法: 事業主体からの実績報告による ③検証対象: 全事業 ④検証頻度: 1回 ⑤開始時期: 令和5年度
	【検証結果】	・参加者数は、平成24年度の事業開始以降、最多となる延べ26,892人となった。 ・本事業においては、新規に取組みを始める団体も見られ、令和5年度は53団体のうち6団体が新規団体であり、1,053人の参加があった。 ・活動を継続することで参加者数は増え、県民参画の活動の広がりが期待できる。

(4) 自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨自己評価	総合評価	理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・事業実施件数は、計画50件に対し、53件の実績となり、計画を達成することができました。 ・当事業を活用した新規団体は53団体中6団体であり、活動団体の広がりが一定数見られます。また、SDGsの視点でぎふの川の環境を学ぶ取組みや未来を担う中学生への森林環境教育などの多様な内容の活動が県内各地で実施され、多くの県民の森林や環境の保全意識向上に寄与しています。 ・今後も幅広く活動を支援していくため、新規の取組みに対する事業の活用を積極的にPRしていきます。

3 第三者評価

⑩第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	○順調に事業が行われている。 ・この事業は地域活動の促進につながっており、引き続き着実な事業の推進を望む。